

はじめに

勉強方法

文章問題

①読む

——まず文章を読みましょう。

②線を引く

——大切だと思うところにチェックをしま
しょう。

③問題を解く

——文章の後についてある問題を解きましょ
う。

④文章の解説動画を見る

——わからないところがあれば、ノートを
とつておきましょう。

※③と④は入れかわってもかまいません。

⑤問題の解説動画を見る

——丸つけをしながら、まちがつたところを
理解しましょう。

⑥復習

授業動画は《文章（本文）の解説 ↓ 問
題の解説》の順で展開されているので、①②
の段階で難しく思うのであれば、まず④の解
説を見てから問題を解いてください。その後、
問題を解いてみましょう。

——文章を音読し、意味のわからないところ
がないか確認。
——また、まちがつた問題、正解していくたけ
れどよくわかつていなかつた問題をも
どつて確認しましょう。

知識問題

①知識の解説動画を見る

——問題を解く前に必ずチャプターの解説を見てください。

——まちがった考え方で解いてしまうと、まちがった考え方のクセがしてしまうので、その前に動画で正しい考え方を理解してから解きましょう。

②問題を解く

——考え方を身につけた後に、問題を解いてみましょう。



③問題の解説動画を見る

——丸つけをしながら、まちがった問題の考え方を理解していきましょう。



④復習

——まちがった問題をしつかり見直し、やり直しましょう。自分の考え方があがつていなかか確認したり、覚えないで解けないところは暗記したりしてください。

目 次

| | | |
|------|------------------------------|-------|
| 第一講 | きいちゃん (物語文) | p. 5 |
| 第二講 | ガラスの小びん (物語文) | p. 13 |
| 第三講 | 暮らしど道 (説明文) | p. 18 |
| 第四講 | これが「週刊こどもニュース」だ (隨筆) | p. 23 |
| 第五講 | ちいさな言葉 (隨筆) | p. 29 |
| 第六講 | 熟語の組み立て (漢字) | p. 34 |
| 第七講 | 詩 | p. 41 |
| 第八講 | 短歌・俳句 (はいく) | p. 47 |
| 第九講 | セミたちと温暖化 (説明文) | p. 58 |
| 第十講 | ロシアパン① (物語文) | p. 63 |
| 第十一講 | ロシアパン② (物語文) | p. 69 |
| 第十二講 | 近代科学の父 ガリレオ・ガリレイ① (伝記) | p. 74 |
| 第十三講 | 近代科学の父 ガリレオ・ガリレイ② (伝記) | p. 79 |
| 第十四講 | ことわざ、慣用句 | p. 84 |
| 第十五講 | 文の組み立て | p. 92 |
| 第十六講 | ことばの種類 | p. 99 |

| | | |
|-------|-----------------------------|--------|
| 第十七講 | バイオリンと歩むなかから (隨筆) | p. 104 |
| 第十八講 | 支え合う仲間 (論説文) | p. 108 |
| 第十九講 | ぼくの世界、きみの世界 (論説文) | p. 112 |
| 第二十講 | 豊かさのゆくえ (説明文) | p. 116 |
| 第二十一講 | 古典 | p. 121 |
| 第二十二講 | 愛を運ぶ人 マザー＝テレサ① (伝記) | p. 128 |
| 第二十三講 | 愛を運ぶ人 マザー＝テレサ② (伝記) | p. 133 |
| 第二十四講 | 生き物はつながりの中に、〈勝負脳〉の鍛え方 (説明文) | p. 139 |

第一講 ● きいちゃん (物語文)

一題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

きいちゃんは、教室の中で、いつもさびしそうでした。たいていのとき、うつむいて、独りぼっちですわつていました。

だから、きいちゃんが職員室のわたしのところへ、「せんせい。」って、大きな声で飛びこんで来てくれたときは、本当にびっくりしました。^① こんなにうれしそうなきいちゃんを、わたしは初めて見ました。

「どうしたの。」

そうたずねると、きいちゃんは、

「お姉さんが^{けっこん}結婚するの。わたし、結婚式に出るのよ。」

つて、にこにこしながら教えてくれました。

「わたし、何着て行こうかな。」

と、とびきりのえがおで話すきいちゃんに、^② わたしも、とてもうれしくなりました。

それから一週間くらいたつたころ、教室で、机に顔をおし付けるようにして、一人で泣いているきいちゃんを見つけました。

なみだでぬれた顔を上げて、

「お母さんがわたしに、結婚式に出ないでほしいって言うの。お母さんは、わたしのことがはずかしいのよ。お姉さんのことばかり考えているの。わたしなんて、生まれてこなければよかつたのに——。」やつとのことでそう言うと、また、激しく泣きました。

でも、きいちゃんのお母さんは、いつもいつも、きいちゃんのことばかり考えているような人でし



きいちゃんは、小さいときに高熱が出て、それがもどで、手や足が思うように動かなくなってしましました。そして、高校生になつた今も、訓練を受けるためにおうちを遠くはなれて、この学校へ来ていたのです。

30

〈山元 加津子「きいちゃん」より〉

(1) ——線①「こんなにうれしそうなきいちゃんを、わたしは初めて見ました」とあります。ふだんのきいちゃんはどんな様子なのでしょうか。文中から八字でぬき出しなさい。



(2)

——線②「わたしも、とてもうれしくなりました」とありますが、ここからわかる「わたし」の人物像としてふさわしいものを次のの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア きいちゃんのお姉さんの気持ちを考えられない冷たい人物。

イ きいちゃんの気持ちをまったく理解しないたよりない人物。

ウ きいちゃんのことをいつも気にしている心のやさしい人物。

エ きいちゃんができないことをはつきりと言つ厳しい人物。



(3) 「わたし」は、きいちゃんのお母さんをどんな人物だと思っていますか。文中の言葉を使って答えなさい。

(4)

きいちゃんはなぜこの学校に通っているのですか。次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

きいちゃんは小さいときに



が出て、

が思うように動かなくなってしま

まつたので、



を受けるために、高校生

になつた今もおうちを遠くはなれたこの学校に通つてゐる。

一題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

宅配便で、お姉さんのところへゆかたを送つてから、二日ほどたつたころでした。きいちゃんのお姉さんから、わたしのところに電話がかかってきました。

お姉さんは、きいちゃんだけでなく、わたしにまで結婚式に出てほしいと言うのです。わたしは、きいちゃんのお母さんの気持ちを考えると、どうしたらいいのか分からず、お母さんに電話をしました。

お母さんは、

「①あの子が、どうしてもそうしたいと言うのです。10

出てやつてください。」

とおっしゃるのです。わたしは、きいちゃんと結婚式に出ることにしました。

花よめ姿よめのお姉さんは、とてもきれいでした。そ

して、幸せそうでした。わたしも、とても幸せな気持ちになりました。でも、気になることがあります

15

5

た。

式が進むにつれて、結婚式に出ておられた何人かの方が、きいちゃんを見て、何かひそひそ話しているのです。「きいちゃんは、どう思つているかしら。やつぱり出ないほうがよかつたのではないかしら。」と、そんなことを考えていたときでした。花よめさんが、お色直しをして、とびらから出てきました。

お姉さんは、きいちゃんがぬつたあのゆかたを着て、出てきたのです。ゆかたは、お姉さんに、とてもよく似合つていました。きいちゃんもわたしもうれしくてたまらず、手をにぎり合つて、きれいなお姉さんばかり見つめていました。

お姉さんは、おむこさんとマイクの前に立たれて、こんなふうに話しされました。

「このゆかたは、わたしの妹がぬつてくれました。

妹は、小さいときに高い熱が出て、手足が不自由になりました。そのために、家からはなれて生活しなくてはなりませんでした。家で父や母と暮らしていわわたしのことを、うらんでいるのではないいかと

35

25

20

思つたこともありました。でも、妹は、そんなことは決してなく、わたしのために、こんな立派なゆかたをぬつてくれたのです。妹はわたしの誇りです。」

そして、きいちゃんとわたしを呼んで、わたし

ちをしようかいしてくれました。

「これが、わたしの大事な妹です。」

式場じゅうが、大きな拍手でいっぽいになりました。

た。

なんてすばらしい姉妹でしょう。わたしは、なみだがあふれてきて、どうしても止めることはできませんでした。

きいちゃんは、きいちゃんとして生まれ、きいちゃんとして生きてきました。そして、これからも、きいちゃんとして生きていくのです。もし、名前をかくしたり、かくれたりしなければならなかつたら、きいちゃんの生活は、どんなにきびしいものになつたでしようか。

きいちゃんは、お母さんに、「生んでくれてありがとう。」

とお話ししたそうです。

きいちゃんは、とても明るい女の子になりました。これが、本当のきいちゃんの姿だつたのだと思います。その後、きいちゃんは、和裁を習いたいと言いました。そして、それを一生のお仕事に選びました。

（山元 やまもと 加津子 かづこ 「きいちゃん」より）

(1) — 線① 「あの子が、どうしてもそうしたいと言ふ」とあります。具体的にはどうしたいのですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア きいちゃんが、お姉さんの結婚式に出たいと

いうこと。

イ きいちゃんが、お姉さんの結婚式に「わたし」といっしょに出たいと

いふこと。
ウ お姉さんが、きいちゃんに結婚式に出てほしい

工 お姉さんが、きいちゃんと「わたし」に結婚式に出てほしいと



(2) — 線② 「きいちゃんを見て、何かひそひそ話している」とあります。どんなことを話しているのだと考えられますか。次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

きいちゃんの

ということ。



だ

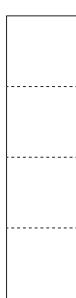
— 線③ 「式場じゅうが、大きな拍手でいっふいになりました」とあります。なぜだと考えられますか。次の文の□にあてはまる言葉を答えなさい。一つ目と二つ目の□は文中からぬき出し、三つ目の□は自分で考えて答えなさい。

結婚式にきていた人たちが、

の強いきずなに、



と



したから。

(4)

——線④ 「これからも、きいちゃんとして生き
ていく」とあります。ここから「わたし」のど
のような心情がわかりますか。ふさわしいものを
次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア きいちゃんはありのままのきいちゃんでいい
のだと、いう気持ち。

イ きいちゃんに手足が治るように努力してほし
いという気持ち。

ウ きいちゃんに今よりも強く生きて、いつてほし
いという気持ち。

エ きいちゃんは本当の自分を取りもどした方が
いいという気持ち。



第一講・確認テスト

次の漢字の部首を選びなさい。

1 校

ア きへん
ウ ごんべん

イ いとへん
エ さんずい

3 聞

ア みみ
ウ もんがまえ

イ かくしがまえ
エ くにがまえ

2 部

ア こぞと
ウ りつとう

イ おおぞと
エ おおがい

4 厚

ア ひ
ウ まだれ

イ こ
エ がんだれ

5 広

ア がんだれ
ウ まだれ

イ やまいだれ
エ しんにょう

第二講 ● ガラスの小びん（物語文）



一題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

父の自慢は、高校野球の選手として甲子園に
出場したことであり、その時持ち帰った「甲子
園の土」をとても大切にしていた。

小学校六年生のとき、わたしは、ひどく父からし
かられたことがあって、^① 甲子園の土を捨てた。⁵
ぶん、しかられた理由は、わたしの心構えがあまい
とか、真剣味^{しんけんみ}が足りないと、そういつたことであつ
たと思うが、わたしの父への小さな反発が一気に爆^{ばく}
発^{はつ}して、ガラスの小びんを持ち出すと、中の土を、
それこそばつと捨てた。^②

どんなに値打ちがあり、どんなにありがたい土で
も、庭の土に混じつてしまふと、すばらしさを證明
することはできなくなり、わたしは、空っぽのびん

10

20

15

父がどんなにおこるだろう、ということが気になつた。そして、父の心——ほこりや、自信や、か
がやかしい思い出まで捨ててしまつたと思うと、大
変な罪をおかしてしまつたような気にさせなつた。
（イ）

その日の夜、父は、意外なことに、わたしをおこ
らなかつた。
「どうか。捨ててしまつたのか。」

25

とだけ言い、なぜか□顔をしていた。

わたしは、ごめんなさいと言い、空っぽのガラスの小びんをおしやると、父は、赤い文字で「甲子園の土」と書いたラベルをつめではがし、わたしに返してきた。

「おこらない。その代わり、おまえがこれに何かをつめるんだ。^④お父さんの甲子園の土に代わるもの

をつめてみせてくれ。」

それから、もう何年もたつ。しかし、ガラスの小びんはまだ空っぽのままである。まだなのかと、父の声が聞こえる気がする。

わたしはほこりとともにこれにつめるものは、月の石なのか、南極のこけなのか、それとも、わたしのあせのしづくなのか、まだ決められない。

〈阿久 悠「ガラスの小びん」より〉

30

35

40

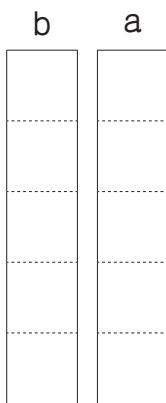
(1)

——線①「甲子園の土を捨てた」とあります。そのような行動をとつてしまつたのは「わたし」のどのような思いの表れですか。その思いを、文中から五字でぬき出しなさい。

(2)

——線②「笑いだしたい気持ち」とあります。このときの「わたし」の気持ちを説明した次の文の□a・bにあてはまる言葉を、文中からそれぞれ五字以内でぬき出しなさい。

これからは父のことが□aに見えなくなる
という□bとした気持ち。



(3)

——線③ 「どんでもないことをしてしまった」とあります。これについて次の問いに答えなさい。

あ 「どんでもないこと」を別の言葉で何と表現していますか。文中から四字でぬき出しなさい。

① そうしたことで、父に對してどんなことをしてしまったと思ったのですか。文中の言葉を使つて答えなさい。

(4)

この文章には次の文がぬけています。この文を入れるのにふさわしいところを文中のⒶ～Ⓑから一つ選び、記号で答えなさい。

わたしは、庭土の混じつた土をびんにため、そして、また捨て、ここにつまっていたものはなんだつたのだろうかとふるえた。

にあてはまる言葉として、ふさわしいものを次のの中から一つ選び、記号で答えなさい。

Ⓐ 暗い
Ⓑ 明るい
Ⓒ 悲しい
Ⓓ つらい

(6)

——線④「お父さんの甲子園の土に代わるもの」とは、「わたし」にとってどのようなものなのですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分のかがやかしい成功を^{おさ}収めたもの。
イ 自分の一生の思い出となるようなもの。
ウ 自分では買えないような高価なもの。
エ 自分の自信となりほこれるようなもの。



第一講・確認テスト

次の漢字の部首を選びなさい。

1 起

ア しんにょう イ そうにょう
ウ えんにょう エ れんが

2 雪

ア うかんむり イ たけかんむり
ウ くさかんむり エ あめかんむり

3 京

ア れつか イ おおがい
ウ なべぶた エ ごんべん

4 助

ア ちから イ りっしんべん
ウ まだれ エ おおがい

5 社

ア ごんべん イ しめすへん
ウ いとへん エ りつとう

第三講 ● 暮らしと道（説明文）

一題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

江戸時代になると、幕府は、国を治めるためにも経済の繁栄のためにも道が重要であると考え、古い道を整備し、新しい道を開くことに力を注いだ。^① 街道には、一里（約四キロメートル）ごとに、遠くからでも見える大きなつかを造った。つかを目印にして、人は歩いたきよりを知ることができた。道の両側には、すぎや松の木を植えた。それらの木々は、冬の冷たい風と、夏の強い日ざしを防いだ。また、二里くらいの間隔で^② *宿場を設けて、荷物を運ぶ人と馬とを用意した。

人々は、安心して旅を続けることができるようになつた。すると、旅人を相手にする宿屋・茶店のほかに、かごや馬で人を運ぶ商売などもさかんになつ

10

5

て、道はますます活気づいてゆく。
必要にせまられて旅をする人だけではなく、樂しみで旅をする人も出てきた。寺や神社へお参りする旅もそうで、お参りに行く道を歩きながら、人々は、美しい風景や人の情けにふれて心がなごみ、自分の住んでいる村にはない、暮らしの知恵なども知つた。

また、道に沿つた所に住む人々も、旅人や旅芸人や行商人から、世間のできごとやめずらしい話を聞いたり、薬などの生活に必要な品物を手に入れたりすることができた。道は、通つていく人と住んでいる人などがふれ合う、貴重な場所でもあつたのである。^③
（西山妙「暮らしと道」より）

*宿場＝街道の途中にある、旅人をとめたり休ませたりする設備のある所。

25

20

15



(1) 線① 「街道」は、何のために整備されたのですか。文中の言葉を使って二つ答えなさい。

(2) 線② 「人々は、安心して旅を続けることが

できるようになつた」のはなぜですか。次の中からふさわしくないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 街道沿いに宿場が設けられ、道の半ばで休む

ことができたから。

イ すぎや松の並木^{なみ}が、冬・夏の厳^{きび}しさを防いで

くれたから。

ウ 街道につかが造られ、歩いたきよりがわかる

ようになつたから。

エ 旅をする人すべてに、荷物を運ぶ人や馬が用

意されたから。

(3) 線③ 「楽しみで旅をする人」とあります。が、

楽しみで旅の例を文中から十一字でぬき出しなさい。

(4) この文章におけるまとめを述べている一文を文

中からぬき出し、初めの五字を答えなさい。() や。も一字と數えます。

【一題目】次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

明治時代になると、道は変わつていった。^①人と、荷物を負つた牛や馬が歩くだけだった道に、人を乗せて走る人力車が現れ、大勢の人を乗せた大型の馬車も、風のよう走るようになった。それは、文明の開化を告げる明るい光景であつたことだろう。けれど、人と道との結びつきは、そのころから少しずつ失われ始めたのである。

自動車が初めて輸入されたのは、明治時代の半ば過ぎだつた。それから百年以上が過ぎ、今、わたしたちは、車社会の中に生きている。トラックが大量の物を、しかも早く輸送し、人々は車を使って快適に目的地へ行くことができる。そして、こうした時代にふさわしく、^②道路は山々をぬけ、島と島をも結び、縦横に広がつてゐるのである。

一方、わたしたちの周りの道を見ると、車があふれるように行き来し、車だけの通路になつてゐるこ

とが多い。そこで、近年では、歩く人を主役に考える新しい道造りが、各地で試みられている。

例えば、人だけが歩く遊歩道。木や草花を植え、水のせせらぎなども設けた道。ベンチでくつろげるような場所をもつた道。あるいは、車を通さない区域を町の中に決めている所もある。いずれも、単なる通路ではない道を求める人々の願いから生まれたのであろう。

^④新しい試みは、しだいに広がつてゐる。一つ一つの道が、わたしたちの暮らしにとけこんでいくにつれて、「生活の場」としての道、「人と人がふれ合う場」としての道は、再び息をふき返すにちがいない。
〔西山 妙「暮らしと道」より〕

(1)

——線①「道は変わつていつた」とあります。が、どう変わつていつたのですか。また、(い)どんな問題が出てきましたか。あは□にあてはまる言葉を文中からぬき出し、(い)は文中の言葉を使って

答えなさい。

——線①「道は変わつていつた」とあります。が、(あ)どう変わつていつたのですか。また、(い)どんな問題が出てきましたか。あは□にあてはまる言葉を文中からぬき出し、(い)は文中の言葉を使って

答えなさい。

(あ)

と

や

に、□と□や□が歩くだけだつた道が現れて、風のようく走るようになつた。

(い)

(2) ——線②「道路」とあります。が、それを説明し
た次の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出
しなさい。

——生きる時代にふさわしい道。

(3)

——線③「人々の願い」とあります。が、どんな願いですか。ふさわしいものを次のなかから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 車を使って快適に移動することができる通路

を求める願い。

イ 生活の場、人と人がふれ合う場としての道を

求める願い。

ウ 物を早く輸送するために、縦横に広がる道路

を求める願い。

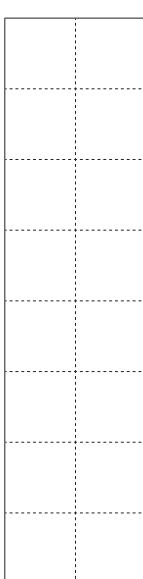
エ 車を通さないで、人だけが歩くことができる

道を求める願い。



(4)

——線④「新しい試み」とあります。が、どんな試みかを示している言葉を、文中から十六字でぬき出しなさい。



第三講・かくにん確認テスト

次の漢字の中で、総画数が他と異なるものを一つ選びなさい。

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | 争 | イ | 仮 | ウ | 交 |
| 2 | ア | 希 | イ | 私 | ウ | 色 |
| 3 | ア | 服 | イ | 厚 | ウ | 迷 |
| 4 | ア | 専 | イ | 速 | ウ | 退 |
| 5 | ア | 庭 | イ | 席 | ウ | 俳 |
| | | | | | | 工 |
| | | | | | | 終 |
| | | | | | | 工 |
| | | | | | | 飛 |
| | | | | | | 革 |

第四講 ●これが「週刊こどもニュース」だ（隨筆）



一題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

一
さ

一九九七年の夏、舞台芸術家の妹尾河童さんの「少年H」をアニメ化し、「*こどもニュース」の夏休み特集で放送しました。これは、妹尾さんが子供たちが太平洋戦争中の出来事を、自分を主人公に書いた小説です。

戦争中の出来事について、^①出演者の子供たちに感想を言ってもらうことにして、アニメを見てもらい、放送前の打ち合わせで感想を求めました。すると、なんの感想も出できませんでした。実に何もないのです。何も言えません。「君はどう思うんだ」とみんなで問いつめたら、子供たちは泣き出してしまいました。今から考えると、とつてもかわいそなことをしたものです。でも、それまで出演者の子供たち、

「君はどう思う？」と自分の頭で考えることをうながされたことがなかつたんですね。

5

仕事で子供たちと付き合うことになって、一番感じていることは、今の子供たちが 訓練を全く受けていないということです。学校では、教えられたことを、テストでどう『再現』するかという訓練は受けています。何が正解なのかもはつきりしています。しかし、これは ^②学校内だけのこと。実社会に出ると、何が正解なのかはつきりしないことが多いですし、そもそも正解なんかないこともあるのです。

20

自分の頭で考える訓練や習慣のない子供たちは、自分で判断しなければならない状況に直面すると、しりごみしてしまい、判断停止になってしまいます。こんな子供たちがやがて大人になり、社会人になると、上から指示されたことだけをする『^③指示待

25

「一族」になり、上から言われた通りのことをするようになるのではないかと心配しています。上がもし判断をまちがえたら、みんなそろってまちがえてしもうからです。

〈池上

彰

あきら

「これが『週刊こどもニュース』だ」より

*こどもニュース＝ニュースや社会問題を、子供にも分かりやすく報道・解説する番組。

(1)

——線①「出演者の子供たちに感想を言つてもらう」つもりでいた筆者ですが、実際にはどうなりましたか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア アニメを見た子供たち全員が同じような感想を持つていた。

イ アニメの内容がむごいものだつたから子供に見せられなかつた。

ウ アニメを見た子供たちは何の感想も持つていなかつた。

(2)

□に入るふさわしい言葉を文中から八字でぬき出しなさい。

(3)

——線②「学校内」とあります、これと反対の意味で使われている言葉を、文中から三字でぬき出しなさい。

——線③「指示待ち族」とは、

あ どんな人ですか。「……人」に続く形で、文 中から十五字でぬき出しなさい。

初め

終わり

(1)

なぜ問題なのですか。一文を文中からぬき出し、初めと終わりの三字を答えなさい。(、や。も一字にぶくみます。)

【一題目】次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

とつぜん「自分で判断しろ」と言われても、その訓練を受けずに大人になつた人たちには、難しいことです。

自分たちの子供が、^①そんな目にあわないようにするためにも、次の世代の子供たちに、日ごろから「自分の頭で考える」習慣を身につけてもらわなければなりません。

「こどもニュース」のうら話になりますが、「こどもニュース」の出演者の子供たちは、当初はニュースのことが全く分からず、ニュースについての意見、感想をスタッフや私が求めて、何も言えませんでした。たまたま一人が少し感想を言うと、残りの子も「同じ」と言つだけでした。それを「さあ、見てどうだつた」と問いつめて、自分の頭で考えさせてきました。こんなことをくり返しているうちに、この章の始めのエピソードのように、泣き出してしまつ

こともあつたのです。

しかし、毎週毎週、「君はどう感じた?」「あなたはどう思つたの?」と自分で考えなければならないよう仕向けていたら、そのうち、しつかり自分の考えを言えるようになったのです。それも、他人からの借り物の言葉ではなく、自分の言葉として言えるようになりました。

しかも、他の子が自分と同じようなことを先に言つてしまつたら、自分は少しでもちがうことと言おうと努力するのです。^②私は、うれしくなつてしまつた。^③この力は、きっと将来生きていく上で、おおいに役に立つはずです。

（池上 彰「これが『週刊こどもニュース』だ』より）

25

(1) 線①「そんな目」とは、具体的にどんなことを指していますか。次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

だれかに「」

と言われたときに、

きずに困ること。

(2) 線②「私は、うれしくなつてしましました」とありますが、筆者がこのように感じたのはなぜですか。ふさわしいものを次のの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 子供たちが他人よりも先に意見を言つてしまおうと競い合つてゐるから。

イ 子供たちがニュースで知つた言葉を正確に表現することができたから。

ウ 子供たちがニュースのことがよくわかる工

リートになることができたから。

工 子供たちが他人とはちがう自分の考えを言うとするようになったから。

(3)

線③「この力」とは、具体的にどんな力ですか。次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

将来「」と

言われたとき、

を受けているので、

自分の頭で考えて

を言えるようになつたり、

で

言おうと努力したりする力。

を

第四講・
確認テスト

次の漢字の中で、総画数が他と異なるものを一つ
選びなさい。

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | 陸 | イ | 術 | ウ | 率 | エ | 耕 |
| 2 | ア | 悪 | イ | 森 | ウ | 悲 | エ | 報 |
| 3 | ア | 駅 | イ | 歌 | ウ | 器 | エ | 報 |
| 4 | ア | 劇 | イ | 管 | ウ | 熟 | エ | 報 |
| 5 | ア | 運 | イ | 遊 | ウ | 貿 | エ | 眼 |

第五講 ● ちいさな言葉（隨筆）



一題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

息子は、なぜか「捨てる」ことを「なげる」と言

う。「なげるじゃなくて、する、だよ」と何度も

いきかせて、すぐにまた「なげる」に戻つてしま

う。

思いあたることはもちろんあって、私の母が「捨てる」ことを「なげる」と言う。東北の方言だろうか。私などは、「ゴミをなげる」と聞くと、紙をまるめて、ゴミ箱めがけてボーンと放り投げる絵柄がつい、頭に浮かんでしまうのだが。

東北育ちの母の言葉には、このほかにも、いくつか①その名残②なごりがある。「かけっこ」のことを「はねっこ」。「一円玉」のことを「一円こ」。「ほとんど」は「ほどんど」だ。

けれどそれらの言葉は、息子には伝染していない。□、私といる時間のほうが圧倒的に長いので、言葉は基本的には私の真似をしているはずだ。

それなのに、なぜか「捨てる」に関してだけは、母の「なげる」が、②aについてしまった。

なぜだろう……と考えていくと、これまた思っていることがある。私の母は、家族のあいだでは「捨て魔」とあだ名されるほど、モノを捨てるのが大好きだ。常に整理整頓していないと気がすまないちで、家をきれいに保つ極意は、とにかく「なげる」と。ほんとうに潔く、気前よく、迷うことなく、なんでもかんでもパツパツと捨ててしまう。

幼い頃の弟などは、すぐに雑誌やオモチャを捨てられるので、毎日のようにゴミ箱をチェックしていく。いつも私はとくに、母とは正反対。必要のな

いのものまで溜め込むのが得意（？）な質である。本は特に捨てられなくて、家賃の半分は本のために払っているのではないかというぐらい、溜め込んでいる。

そんな様子を見て怒り狂う母の口ぐせは、こうだ。

「^④図書館にある本は、なげなさい!!」

35

つまり、私の辞書には「捨てる」という語がなく、母の日常は「なげる」に満ちている。結果、息子は「捨てる」よりも「なげる」のほうを頻繁に^⑤ [b] にしてきたのだろう。そういえば、母は私のところに来ても、これをなげなさい、あれをなげなさい、としそつちゅう言つてゐる。

40

最近では、息子の「なげる」を矯正^{きょうせい}するのは難^{むず}しいかな、と思ひはじめた。最初に覚えた言葉といふのは、ほんとうに強い。そのうえ、このたび生活の拠点を^{きよてん} *仙台^{せんだい}に移すことになつた。仙台で育つ息子は、どのみち「なげる」派^はになる運命だつたのだ。

（儀^{いき} 万智^{まち} 「ちいさな言葉」より）

*仙台：東北地方にある宮城県の県庁所在地。

(1) この文章が何について書かれたものかをまとめた次の文の□にあてはまる言葉を、文中からそれぞれぬき出しなさい。

息子が

□

ことを

□

と言つこと。

(2)

——線①「その名残」とは何の名残ですか。文中から五字でぬき出しなさい。

□

(3)

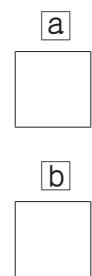
□にあてはまる言葉としてふさわしいものを次の文の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア なかなか イ わざわざ
ウ そもそも エ いよいよ

□

(4) — 線②「aについて」、⑤「bにして」に

あてはまる漢字一字をそれぞれ答えなさい。



(5)

——線③「捨て魔」とあります、母のこのよ

うな様子について、筆者はどのように感じていますか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分とはまるで違う母の性格や行動に、とまどいを感じている。

イ 母の思い切りのよさに驚きながらも、すがすがしく感じている。

ウ 母の姿にあこがれ、自分も母のようになりたいと感じている。

エ 断りもなく勝手なことをする母に、怒りと反発を感じている。



(6) — 線④「図書館にある本は、なげなさい!!」とありますが、この言葉が表す意味として

ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 家にある本はすべて、図書館に寄付をすべきだということ。

イ 家にある本を、図書館のよう整理整頓すべきだということ。

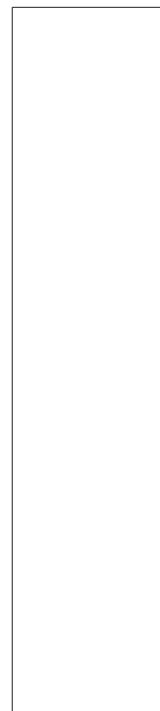
ウ 図書館にある本は、大切にあつかう必要があるということ。

エ 図書館にある本は、自分で持つておく必要はないということ。



(7)

——線⑥「息子の『なげる』を矯正するのは難しかな」とあります。筆者がこのように考へるのはなぜですか。理由を二つ答えなさい。



第5講・
 確認テスト
 かくにん

次の漢字と同じ総画数のものを後から選びなさい。

| | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|---|
| 3 ウ ア 葉 道 | 2 ウ ア 深 魚 | 1 ウ ア 暑 健 | 貨 |
| エ イ 混 番 | エ イ 問 善 | エ イ 湯 朝 | |

| | |
|-----------------|-----------------|
| 5 ウ ア 勢 答 | 4 ウ ア 暖 燒 |
| ウ 福 | ア 属 |
| エ イ 達 勝 | エ イ 幹 意 |

第六講 ● 熟語の組み立て（漢字）

一、二字熟語の組み立て

二字以上の漢字が組み合わさって、できた言葉を

熟語といい、二字のものが多い。

① 似た意味をもつ漢字を組み合わせたもの。

例 豊富 広大

② 反対の意味や、対になる意味をもつ漢字を組み合わせたもの。

例 高低 父母

③ 前の漢字の意味が、あとの漢字の意味を修飾^{しゅくしょく}して いるもの。

例 温泉 急流

④ 動作を表す漢字と、「～を」「～に」にあたる

意味の漢字を組み合わせたもの。

例 洗顔 帰国

⑤ 前の漢字の意味が、あとの漢字の表す動作や作用の主語になっているもの。

例 国立 県営

⑥ 前の漢字があとの漢字の意味を打ち消しているもの。

例 不正 未着



2、三字熟語の組み立て

① 一字と二字の組み合わせ

・前の字があとの語の様子や性質などを限定するもの。

例 **急降下** ききょうこうか 新記録 しんきろく 低学年 ていがくねん

・前の字があとの語の意味を打ち消しているもの。

例 **無制限** むせいげん 未公開 みこうか 非常識 ひじょうしき

二字と一字の組み合わせ

・あとの語が前の語の内容をまとめて物事の名前となるもの。

例 **運動場** うんどうじょう 加盟国 かめいこく 発表会 はいじょうかい

・あとに「性」「然」「的」「化」の字がついて、様子や状態を表すもの。

例 **科学的** かがくてき 安全性 あんぜんせい 温暖化 おんなんか

一字の語の集まり。

例 市町村 いちまちそん 衣食住 いじゆじゆ

1

次の(1)～(3)は似た意味の漢字の組み合わせ、(4)～(6)は反対の意味や、対になる意味の漢字の組み合わせの熟語ができるように、□にあてはまる漢字を□から選び、書きなさい。

| | |
|----------------------|----------------------|
| (4) 明 | (1) 頭 |
| <input type="text"/> | <input type="text"/> |
| (5) 他 | (2) 減 |
| <input type="text"/> | <input type="text"/> |
| (6) 動 | (3) 富 |
| <input type="text"/> | <input type="text"/> |

豊

静

自

少

暗

先

2

次の(1)～(3)は似た意味の漢字の組み合わせ、(4)～(6)は反対の意味や、対になる意味の漢字の組み合わせの熟語ができるように、□に漢字を書きなさい。

| | |
|----------------------|----------------------|
| (4) 高 | (1) 路 |
| <input type="text"/> | <input type="text"/> |
| (5) 暖 | (2) 絵 |
| <input type="text"/> | <input type="text"/> |
| (6) 損 | (3) 助 |
| <input type="text"/> | <input type="text"/> |

3

次の熟語の組み立てをあとから選び、記号で答えなさい。

(11) 読書 (9) 無害 (7) 新年 (5) 不足 (3) 未定 (1) 着席

(12) 県立 (10) 善人 (8) 非常 (6) 除雪 (4) 人造 (2) 光線

ア 前の漢字の意味が、あとの漢字の意味を修飾しているもの。

イ 動作を表す漢字と、「～を」「～に」にあたる意味の漢字を組み合わせたもの。

ウ 前の漢字の意味が、あとの漢字の表す動作や作用の主語になっているもの。

エ 前の漢字があとの漢字の意味を打ち消しているもの。

4

次の熟語と組み立てが同じ熟語をあとから選び、記号で答えなさい。

| | | | | |
|----|----|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 工 | ア | (5) | (3) | (1) |
| 作文 | 養育 | 日照 | 納税 | 古都 |
| 才 | イ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 町 | 往復 | (6) | (4) | (2) |
| 営 | ウ | 省略 | 利害 | 無料 |
| 力 | 國旗 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 不幸 | | | | |

5

次の□にあてはまる漢字を□から選んで書き、三字の熟語を作りなさい。ただし、同じ漢字は一度しか使えません。

| | | | | |
|---|---|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 不 | 局 | (5) | (3) | (1) |
| 局 | 化 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 化 | 深 | 公平 | 意味 | 呼吸 |
| 深 | 無 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 無 | 的 | (6) | (4) | (2) |
| 的 | | 理想 | 自由 | 郵便 |
| | | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

6 次の□にあてはまる漢字を□から選んで書き、三字の熟語を作りなさい。ただし、同じ漢字は一度しか使えません。

| | | | |
|-------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| 梅 席 未 計 表 食 | (5) <input type="text"/> 面積 | (3) <input type="text"/> 習慣 | (1) <input type="text"/> 成年 |
| | (6) <input type="text"/> 溫度 | (4) <input type="text"/> 松竹 | (2) <input type="text"/> 指定 |

第六講・
 確認テスかくにんト

次の漢字と同じ総画数のものを後から選びなさい。

| | | | | | |
|---------------|---|---------------|---------------|---------------|---|
| 3 ウ ア 優 | 機 | 2 ウ ア 願 | 2 ウ ア 就 | 1 ウ ア 新 | 最 |
| イ イ 嚴 | 謝 | イ 職 | イ 臓 | イ 解 | 飼 |

| | | | |
|---------------|---|---------------|---|
| 5 ウ ア 說 | 敵 | 4 ウ ア 導 | 線 |
| イ イ 銅 | 雜 | イ 鼻 | 箱 |

第七講 ● 詩

1、詩の種類

① 言葉による分類

・文語詩：昔の言葉で書かれた詩。

・口語詩：現代に使われている言葉で書かれた

詩。

② 形式による分類

・定型詩：音数にある一定のきまりがある詩。

・自由詩：音数にきまりがない、自由な形式の

詩。

③ 内容による分類

・叙情詩：心情が中心の詩。

・叙事詩：風景を表した詩。

2、詩の表現技法

① 比喻：あるものをほかのものにたとえて表す技法。

② 擬人法：人でないものを人にたとえる技法。

③ 倒置法：言葉の順序を逆にして意味を強める技法。

④ くり返し法：同じ言葉を何度もくり返す技法。

⑤ 対句法：似た調子の言葉を対照的に並べる技法。

⑥ 省略法：言葉を省略して余いんを残す技法。

⑦ 体言止め：名詞を終わりに置いて強調する技法。



い。

一題目 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある日ある時

黒田 さぶろう

三郎

秋の空が青く美しいといふ
 ただそれだけで
 何かしらいいことがありそうな気のする
 そんなときはないか
 空高く噴き上げては
 むなしく地に落ちる噴水の水も
 わびしく梢をはなれる一枚の落葉さえ
 何かしら喜びに踊つて いるように見える
 そんなときは

10

5

(1) この詩の種類を次の二つ選び、記号で答なさい。

ア 文語詩 イ 口語詩
 ウ 定型詩 エ 自由詩

(2)

この詩で使われている表現技法を次の二つから
 べて選び、記号で答なさい。

工 擬人法 イ 反復法 ウ 対句法
 ア 省略法 オ 体言止め



一題目 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

雨

西脇 順三郎

南風は柔い女神やわらかめがみをもたらした。

青銅をぬらした、噴水をぬらした、ツバメの羽と黄金の毛をぬらした、

潮をぬらし、砂をぬらし、魚をぬらした、

静かに寺院と風呂場と劇場をぬらした、

この静かな柔い女神の行列が

私の舌を 。

5

(1) — 線「柔い女神」について、次の問いに答えなさい。

なさい。

あ 何を表していますか。漢字一字で答えなさい。

なさい。

① このように、あるものを別のものにたとえて表す表現技法を何といいますか。二字で答えなさい。



(2)

をふくむ一行には、反復法が使われています。 に入る言葉を詩の中からぬき出

して書きなさい。



三題目 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

北の春

丸山

薰

どうだろう
この沢鳴りの音は

山々の雪をあつめて

ごうごうと谷にあふれて流れくだる

このすさまじい水音は

緩みかけた雪の下から

一つ一つ木の枝がはね起きる
それらは固い芽のたまをつけ

不敵なむちのよう

人の額を打つ

やがて 山すその林はうつすらと

緑いろに色付くだろう

その中に 早くも

朝早く 授業の始めに

一人の女の子が手を挙げた
先生 つばめがきました

こぶしの白い花もひらくだろう

(1) 線①「この沢鳴りの音」とあります。この音は何がどうなっている音ですか。次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

いく音。
がとけて□に流れで

(2) 線②「やがて山すその林はうつすらと／緑いろに色付くだろう／その中に早くも／こぶしの白い花もひらくだろう」とあります。この部分についての説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 去年の春の様子をぼんやりと思い出している。
イ 春めいていく様子をうつとりと思い浮かべている。

ウ すっかり春になつた様子をじっくりとながめている。
エ 周囲の様子が変わつてしまつことを心配している。

(3) この詩の主題としてふさわしいものを次のなかから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自然の力強さに対する感動。
イ 自然の美しさを見つけたおどろき。
ウ 待ちわびた季節をむかえた喜び。
エ 季節が過ぎて行つてしまつ切なさ。



第七講・確認テスト

かくにん

次の熟語の組み立てとして正しいものを、後から
それぞれ選びなさい。

1 県立

2 男女

3 深海

4 永久

5 上流

ア 似た意味の漢字を組み合わせたもの

イ 反対の意味の漢字を組み合わせたもの

ウ 上の字と下の字が主語・述語の関係になつて
いるもの

エ 上の字が下の字を修飾する関係になつて いる
もの

第八講 ● 短歌・俳句

1、短歌と俳句

① 短歌

五・七・五・七・七の三十一音からなる。

千三百年以上も昔に生まれ、奈良時代には、
現存する最古の歌集である『万葉集』も作られ
た。

② 俳句

五・七・五の十七音からなり、世界で最も短
い詩とされる。季節を表す言葉である季語をよ
みこむ約束がある。



一題目

次の短歌と俳句を読んで、あとの問に
答えなさい。

A 石走る垂水の上のさわらびの
いはばし たるみ

萌え出づる春になりにけるかも

志貴 皇子
しきの みこ

岩の上を水が激しく流れるたきのほとり
に、わらびが芽を出している。どうどう春が
やつてきたのだなあ。

B みちのくの母のいのちを一目見ん
ひとめ

一目みんどぞただにいそげる

斎藤 茂吉
さいとう もしき

東北の故郷にいる母が死を待つばかりとなつたので、生きているうちに一目会いたい
というその一心で、先を急いでいる。

C 金色のちひさき鳥のかたちして
こんじき (い)
銀杏ちるなり夕日の岡に
いんとう (い)
与謝野晶子
よさの あきこ

D 雪とけて村一ぱいの子どもかな

小林 一茶
こばやし いつさ

E スケートのひもむすぶ間もはやりつつ

山口 誓子
やまぐち せいこ

(1) Aの短歌では、どのようなことから春がきたことを感じ取っているか答えなさい。

(2) Bの短歌で、母親を思う気持ちがもつともよく表れている言葉を八字でぬき出しなさい。

(3) — 線 「金色のちひき鳥」とは、何をたとえて表していますか。短歌の中からぬき出しなさい。

(4) Dの俳句と同じ季節をよんでいる俳句を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 夏河をこすうれしさよ手にざうり

与謝 蕪村

イ 流れ行く大根の葉の早さかな

高浜 虚子

ウ 外にも出よ触るるばかりに春の月

中村 汀女

工 朝顔につるべとられてもらひ水

加賀の 千代

(5) Eの俳句は、どのような気持ちをよんだものですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア スケートがうまくできるか不安な気持ち。

イ スケートを早くしたくてしかたがない気持ち。

ウ スケートがうまくできてうれしい気持ち。

エ スケートならだれにも負けないといばる気持ち。

一題目 次の短歌と俳句を読んで、あとの問に

答えなさい。

A 東の野にかぎろひの立つ見えて

かへり見すれば月傾きぬ

柿本 人麻呂

東に広がる野原はほのかに明るくなつてきて、ふり返つて見てみると、月が西のほうにしづみかけていた。

B 街をゆき子供の傍を通る時

蜜柑の香せり冬がまた来る

木下 利玄

C いつしかに春の名残となりにけり

昆布干し場のたんぽぽの花

北原 白秋

D 閑さや岩にしみいる蟬の声

松尾

芭蕉

E とゞまればあたりにふゆる蜻蛉かな

中村

汀女

(1)

Aの短歌は、どのような時間帯についてよまれていますか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 早朝
イ 昼間
ウ 夕方
エ 深夜



(2) Bの短歌では、どのようなことから冬がきたことを感じ取っていますか。短歌の中からぬき出しなさい。

(3)

——線「春の名残」とは、何のことですか。短歌の中から六字でぬき出しなさい。

(4)

Dの俳句によまれてているのは、どのようなことに対する感動ですか。次の文の□ a・bにあてはまる言葉を、俳句の中からぬき出しなさい。
(ひらがなでもかまいません)

そうぞうしい□ a さえも岩にしみこんでい
くような、深い□ b に対する感動。

(5)

Eの俳句と同じ季節をよんでいる俳句を次のなかから一つ選び、記号で答えなさい。

b □ a □

ア 五月雨さみだれを集めて早し最上川もがみがわ

松尾まつお芭蕉ばく

イ 卒業の兄あいだと來てゐる堤つつみかな

芝しば不器男ふきお

エ ウ 遠山に日の当りたる枯野かれのかな

高浜たかはま虚子きよし

正岡まさおか子規しき

二題目 次の短歌を読んで、あととの問いに答えなさい。

A くれなる(い)の二*尺伸びたる薔薇の芽の
針はりやはらかに春雨のふる

B *たはむれに母を背負ひて
そのあまり軽きに泣きて

C 妹の小さき歩み急がせて
千代紙買ひに行く月夜かな

D ねこの子のくびの*すずがねかすかにも
おとのみしたる夏草のうち

石川 いしかわ
木下 きのした
啄木 たくぼく
利玄 りげん

正岡 まさおか
子規 しき

* 尺 = 長さの単位。一尺は約三〇・三センチメートル。
* たはむれに = ふざけて。
* すずがね = すずの音。

(1) 線①「やはらかに」とありますか。何の様子を表していますか。ふさわしいものを次のなかからすべて選び、記号で答えなさい。

ア 薔薇の花の赤い色 イ 薔薇ののびたくき
ウ 薔薇の新芽のとげ エ 春雨のふり方

(2)

——線②「泣きて」とあります。なぜ泣けるのですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 母親が年老いてしまったことを実感したから。

イ 母親を背負って歩くことすらできなかつたら。

ウ 母親に生まれて初めて恩返しができたから。

エ 母親がやせてしまつた理由がわからないか

き出しなさい。

(3)

Cの短歌の中から、妹がまだ幼いことがわかる句(五・七・五・七・七のうちの一つの句)をぬき出しなさい。



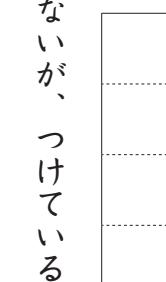
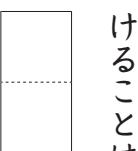
(4)

Dの短歌の情景を説明した次の文の□にあてはまる言葉を、短歌の中からぬき出しなさい。

草むらの中に

だけがかすかに聞こえる。

の姿を見つ



四題目

次の俳句を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

A 跳躍台人なし。ブル真青なり

水原 みずはら
秋櫻子 しゅうおうし

B スリツパを越えかねてゐる仔猫かな

高浜 たかはま
虚子 きよし

C せきをする母を見上げてゐる子かな

中村 なかむら
汀女 ていじょ

万緑の中や。吾子の歯生え初むる

中村 なかむら
草田男 くさたお

J 引づぱれる糸まつすぐや。甲虫

高野 たかの
素十 すじゅう

E 赤い椿。白い椿と落ちにけり

河東 かわひがし
碧梧桐 へきごうとう

*吾子||わが子。
*ゆかし||心ひかかる。
*たけ||背たけ。
*あきつ||とんぼ。

黛 まゆずみ
まどか

G つかみあふ子供の。たけや麦畑

向井 むかい
去来 きよらい

F 山路来て何やら。ゆかしすみれ草

松尾 まつお
芭蕉 ばしょう

(1) Aの俳句の季語とその季節を答えなさい。

季語

季節

(2)

Bの俳句からは、仔猫についてどのようなことがわかりますか。次の文の□にあてはまる言葉を、考えて答えなさい。

仔猫が、まだとても

ということ。

(3)

Cの俳句によまれている子どもの気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア セキをしている母親を心配する気持ち。

イ 母親がうるさいので腹立たしい気持ち。

ウ 母親がせきこんでいる様子をいやがる気持ち。

エ 早く母親に遊んでもらいたい気持ち。

(5)

Fの俳句から、作者が季節のおとずれを感じ取っているものをぬき出しなさい。

(4)

DとEの俳句の表現の共通点を説明したものとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 比喻表現が読む者の想像を広げる。

イ 感情を表す言葉が多用されている。

ウ 色彩の対照があざやかである。

エ 音数が基本よりも多くなっている。

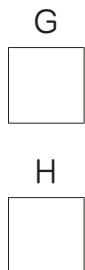
(6)

GとHの俳句について述べたものとしてふさわしいものを次のの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 子供同士がけんかになりはりつめた空気が流れているが、どこかほのぼのとしたところがある。

イ 子供のしんちょうな様子から、わくわくする気持ちときんちょう感とが伝わってくる。

ウ 子供たちがたくましく成長したことに、おどろきながらも喜ぶ親の思いがこめられている。樂しそうにたわむれる子供たちの様子が生き生きとえがかれ、まるで声まで聞こえるかのようである。



(8)

Jの俳句で使われている表現技法を次のなかから一つ選び、記号で答えなさい。

ウ ア 反復法
擬人法

イ 倒置法
工 体言止め



——線「糸まつすぐや」とあります。が、なぜ糸はまつすぐ張っているのですか。俳句の中の言葉を使って答えなさい。

第八講・**確認テスト**
かくにん

次の熟語の組み立てとして正しいものを、後から
それぞれ選びなさい。

1 存在

2 国立

3 読書

4 強弱

5 有無

ア 似た意味の漢字を組み合わせたもの

イ 反対の意味の漢字を組み合わせたもの

ウ 上の字と下の字が主語・述語の関係になつて

いるもの

エ 上の字が下の字を修飾する関係になつて いるもの

もの

第九講 ● セミたちと温暖化（説明文）



一題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

はいう。

もう三〇年以上も前、まだ東京の農工大に教員として勤めていたときのことだ。そのころのぼくは小金井にあつた農工大の宿舎に住んでいた。階下と二階に一間ずつしかない狭い宿舎だつた。

授業のはじめ先生は、生徒たちに一枚ずつ画用紙を渡し、いきなり「さあ、この紙にアリの絵を描いてみなさい」と言つたのだそうである。生徒たちは当惑した。みんな一生けんめい頭の中でアリの姿を思いうかべ、それを絵に描こうと努力した。

ある年の正月。前から知つていた成城学園小学校の庄司和晃先生が、何やら大きな風呂敷包みを抱えてひよっこり訪ねてきた。

絵ができあがると、先生は子どもたちの作品を一枚ずつ集め、職員室で丁寧に切り抜いて、大きな紙に貼つていつた。それが一年生のから六年生のまで合計六枚になつた。先生が一枚ずつ広げてくれるその絵を順番に見ていくと、じつにおもしろかつた。

アリというから小さく小さく描いている子。かと思ふと、一〇センチもある巨大なアリを描いている子。みな思い思いに描いている。

それには何と、画用紙から切り抜いたアリの絵が大きな紙にたくさん貼りつけてあつた。

「これは子どもたちが描いたアリの絵です」と先生

まざまなアリの姿の思いに、ぼくは感嘆した。

（日高 敏隆）ひだか としおか 「セミたちと温暖化」より

*やおらゆつくりと動作を始める様子。

を見せるため。

（1）——線①「狭い宿舎」とあります。宿舎が狭い

いということがわかる一文を、これよりあとの部分からぬき出しなさい。

（2）——線②「ひよつこり訪ねてきた」とあります。が、庄司先生は何のために筆者を訪ねたのですか。次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

たから。

が伝わるようだつ

子どもたちが

アリの絵からは

描いた

（3）——線③「ぼくに見せてくれた」とあります。

それを見たときの筆者の反応を最もよく表している漢字二字の言葉を、文中からぬき出しなさい。

（4）——線④「じつにおもしろかった」とあります。が、筆者はなぜこのように感じたのですか。次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

一題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

庄司先生が、上、中、下と三段になつたアリ

の絵を見せてくれた。それは一人の子どもが描いたアリの絵で、上段はいきなりアリの絵を描きなさいといって描かせたもの、中段はアリを実際に見ながら描かせたもの、下段は先生が説明したあとで描かせたものだということだった。

「さあそれからひげだ。触角はどうち向いてる？」

後向きになつてゐるかい？」

子どもたちはそこでまたあらためて気がついた。

「あ、前向きになつてる！」

「そうだろ。アリさんは触角で前を探りながら歩くから、触角が後ろ向きになつていたら困るんだよ」

子どもたちはうなづいた。

「さあ、もういっぺんアリをよく見ながら描いてみなさい」

こうしてできあがつたのが最下段の絵であつた。

子どもたちのアリの絵は、ぐつと実物に近くなつた。頭と胸と腹。胸には六本の肢。頭から前を向いた触角。

大事だつたのは子どもたちがみんなそれぞれに納得がいった上で、この絵を描いたことであつた。

たいていの女の子たちは、こうしてできあがつた立派なアリの触角に、ちゃんとかわいらしいリボンをつけていた。

当時も今も、「とにかくまず実物を見せろ」というのが教育の原則であつた。ぼくも努めてそうしてゐた。しかし庄司先生のこの一連のアリの絵の話を聞いて、目からうろこの気持ちだつた。

人間は実物を見たからといって、おいそれとその実物が見えるものではないということが、しみじみよくわかつたからである。

ぼくがとくに感動したのは、いちばん上段の絵を描きながら、頭と胴を描いたり消したりして迷つてゐた子の絵が、本物のアリを見せられたとき、先生の説明はまだなかつたのに、^{*}忽然として頭と胸と

腹になつていたことであつた。

（日高 敏隆「セミたちと温暖化」より）

*忽然として＝たちまち。またたく間に。

イ 人は思いこみや先入観にとらわれていることが多いから。

ウ 現代人は視力のよくない人が多いから。

エ 人の目は細かい部分までよく見ることはできないから。

(1)

庄司先生がこの文章のような方法で子どもたちに絵を描かせたのは、どんなことが大切だと考えていましたか。次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

子どもたち一人ひとりが



で絵を描くこと。

(2)

——線「人間は实物を見たからといって、おいそれとその实物が見えるものではない」とあります。それはなぜだと考えられますか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

イ 物事に迷わなければ、实物にたどり着くことはできないこと。

ウ 迷うことは物事を注意深く見ることにつながるということ。

エ 物事に迷つたときは实物を見ることで解決できるということ。



(3)

最後の段落の内容からどのようなことがわかりますか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 迷いを断ち切らなければ、どんなことも成功しないということ。



第九講・**確認テスト**

かくにん

次の熟語の組み立てとして正しいものを、後から
それぞれ選びなさい。

1 乗車 2 強風 3 非常
4 未熟 5 市営

ア 上の字と下の字が主語・述語の関係になつて

いるもの

イ 上の字が下の字を修飾する関係になつている

もの

ウ 下の字が上の字の目的語になつているもの
工 上に打ち消し語がついているもの

第十講 ● ロシアパン①（物語文）

一題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

「おい、お前の所のロシア人が、パンを売りに来たぞ。」

学校の帰りなど、^①同級生たちが、わたしをこう言つてからかつた。

「おれの所でないよ。家の裏だ。」

「おんなじじゃないか。」

「ちがうよ。」

すると、一人が、

「オイシイ オイシイ ロシアパン カイマセンカ。」

そんなロシア人の言葉のまねをすると、大きい声で、みんなで笑つた。わたしは、家の裏に引っこしてきたロシア人がうらめしくなつた。

「オイシイ オイシイ ロシアパン カイマセンカ。」

その日はきっと、思うように売れなかつたのだろう。^②学校から帰る小学生までつかまえて、本当にそう言いながら、ロシア人はパンを売つて歩いた。それを見ると、わたしは、自分がパンを売つて歩いているような気さえした。そして、なんだかはずかしくなつてくるのであつた。

でも、売れなくて、商売がうまくゆかないと思うと、かわいそうな気もしてきた。

そんな日、家に帰つて、

「ロシアパンは、今日は売れないよ。」

そう言つと、わたしの父や母は、

「そんなら、買ってこい。」

と、お金をくれるのだった。

（高橋 大河）

正亮 「ロシアパン」より



(1)

——線①「同級生たちが、わたしをこう言つてからかつた」について、次の問いに答えなさい。

あ どのようにからかつたのですか。文中から一文でぬき出しなさい。

| | |
|--|--|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

| |
|--|
| |
|--|

(2)

——線②「学校から帰る小学生までつかまえて」について、次の問いに答えなさい。

あ この行動からロシア人のどのような様子がわかりますか。ふさわしいものを次のの中から一つ

選び、記号で答えなさい。

ア どうせパンは売れないと、投げやりになつている。

イ なんとかしてパンを売りたいと、あせつている。

ウ 日本人と早く仲良くなりたいと、気をつかつてている。

エ パンを売るこつを心から楽しみ、はりきつてている。

| |
|--|
| |
|--|

(い)

ロシア人のこの行動を見て、「わたし」はどうに感じましたか。次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

まるで自分のことのように

なつた。しかし、パン

が売れていないのだと思うと、ロシア人が

になつた。



【一題目】次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

「わたし」の家の裏に引っこしてきたロシア人は、「ロシアパン」と書いた箱を持ってパンを売り歩いていた。「わたし」は、そのことで同級生にからかわれていた。

時折食べるせいか、わたしにはパンほどおいしいものはないようと思えた。わたしの家でも、みんなロシアパンが好きになつた。

ハイカラなものは、何でもきらいな祖母まで、「今日は、パン屋の売れ行きはどうだ。」と、わたしにきいて笑つた。パンを買ってこいといふことであつた。

ロシアパンは、しだいに売れていった。ロシア人の家にまで、わざわざ買いに来る人さえ出てきた。
わたしをからかった同級生たちまで、いつかパンが売り切れると、次には、わたしにたのんで買ってもらうくらいであつた。

そして、わたしたちも、ロシア人たちと仲良しになつた。

きりのむらさき色の花は、静かにさき、美しく見える。そのきり畑の前の空き地で、わたしの妹とロシア人の女の子はよく遊んでいた。学校へ行きたいと言つていたという女の子は、妹と歌を歌つたり、ゆうぎをしたりしていた。

わたしはまた、男の子と仲良しになつた。わたしといくつもちがわないようなまだ子どもなのに、もう箱をかたにかけて、父といつしょにパンを売つて歩くのを見ると、なにか大人のよう見えるのであつた。けれども、商売を終えて家に帰つてくると、やはり子どもであつた。わたしといつしょに、めんこ遊びなんかするのだ。

すっかり仲良しになつたわたしたちは、わたしは店から果物を、男の子は自分の家からパンをくすねてきて、二人はこつそり取りかえっこをして、笑いながら食べ合つた。男の子は、わたしの知らない外の話を教えてくれ、わたしは、かれが町のどんな

大人よりもえらいような気がした。

（高橋 たかはし 正亮 せいりょう 「ロシアパン」より）

（1） 「わたし」がロシアパンを大好きであることわかる表現を文中から一文でぬき出し、初めの五字を答えなさい。

（2） 線① 「わたしをからかつた同級生たちまで、いつかパンが売り切れると、次には、わたしにたのんで買ってもらうくらいであつた」とありますが、同級生たちはなぜこのような行動をとつたと考えられますか。文中の言葉を使って答えなさい。

（3） 線② 「男の子と仲良しになった」とあります、「わたし」は男の子をどのように思つていましたか。次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

パンを売つて歩く姿は

（4） 「わたし」が男の子を尊敬する気持ちが最もよくわかる部分を文中から二十三字でぬき出し、初めと終わりの四字を答えなさい。

に遊んでいると、やはり
た。
見えたが、いつしょ
だと思つ

第十講・確認テスト

かくにん

次の説明に当てはまるものを選びなさい。

1 今の言葉で書かれた詩のことをなんといいますか。

ア 文語詩
ウ 自由詩
エ 定型詩

4 あるものを他のものにたとえて表す技法はなんといいますか。

ア 比ゆ
ウ 体言止め
エ 対句法

5 似た調子の言葉を対照的に並べる技法をなんといいますか。

ア 比ゆ
ウ 対句法
エ 省略法

3 心情が中心の詩をなんといいますか。

ア 口語詩
ウ 叙景詩
エ 叙情詩

第十一講・ロシアパン②（物語文）



一題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

「おい、お前のところにスパイがいるぞ。」

と言つた。

「おれのところにそんな者はいないよ。」

わたしがそう言うと、同級生たちがまた言つた。

「いるじゃないか。お前の家の裏に。」

「あのロシアパンさ。あいつはスパイだ。」

まるであたりまえのことだというようにして言うの
だつた。

「スパイだかなんだか、分からぬではないか。」

「スパイだよ。」

「なぜ？」

「大人だつて、みんな言つてるぞ。」

「どんなスパイをしたんだ。」

わたしがロシアパンはスパイだと言わないのを見
ると、みんなおどろいたようにして顔を見合させた。
そして、同級生の一人が、

「こいつ、スパイの仲間だぞ。」

と言つた。

「そうだ。」

「そうだよ。」

と、みんな、わたしがまるでスパイの本当の仲間の
ようなことを言つた。そして、国のために悪いこと
をしたスパイに味方をするやつをこらしめてやろう
というようにして、みんなでつめ寄つてくるので
あつた。今度はからかうのではなく、心からにくら
しいというようにして、ののしるのだつた。

わたしは、本当に、はらを立てていた。わたしは、
だまつて学校から帰りながら、あの人のいいロシア
人たちが、スパイのはずはないと思つた。けれども、

二題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

ロシア人たちは、とうとう ^①家をたたんで、町からはなれることになった。

身の回りの物を、大きな包みにして背負つた、そのすがたを見ると、本当に住む所もなく、世界じゅうの遠い国々をさまよつて歩く外国人という気がして、心からかわいそうに見えてくるのであつた。

ロシア人たちは、別れのあいさつをしに、わたしの家へ來た。そして、

「ワタシハ、スペイデハ、アリマセン。」

と、わたしの父に言つた。

わたしの父は、えがおを向けると、

「いつまでも、元気でくらしてください。」

そう言つた。

母は、果物を持ってきて、子どもたちにあげた。ロシア人は、また何度も礼を言いながら、みんなに大きな手であく手した。だれもがみなえがおなの

に、少しあびしい別れのあいさつであつた。
ロシア人の家が取りこわされると、こんなちっぽけな所に、あの四人の家族がいたのかと思うような小さな空き地ができた。

大きなきりの葉が、白い秋の日の光を受けてかさかさゆれると、なにかその辺がものさびしく見えるのであつた。そして、あのタベのおいのりの声や、静かに歌う贊美歌の声が、どこからか聞こえてくるような気がしてくるのであつた。

わたしは、今でもパンを買うたびに、あのロシア人の家族を思い出す。

（高橋 正亮「ロシアパン」より）

(1) 線①「家をたたんで、町からはなれることになった」ロシア人たちを見て、「わたし」はどういうに感じましたか。文中の言葉を使って、十五字以内で答えなさい。

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

（2）――線②「『ワタシハ、スペイデハ、アリマセン。』
と、わたしの父に言つた」ときと、――線③「何
度も礼を言いながら、みんなに大きな手でよく手
した」ときのロシア人の気持ちとしてふさわしいも
のを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 自分を信じてもらえないことに腹はらを立てる気

イ　自分を信じてもらいたいと強く願う気持ち。
ウ　自分が信じてもらえないはずないと確信する気持ち。

工　自分を信じてもらえたことをうれしく思う気持
持ち。
才　自分は信じてもらえないだろうとあきらめる
気持ち。

ANSWER

(3) 口シア人の家族かいなくないたあと
はどのような気持ちになりましたか。文中の言葉
を使って十字以内で答えなさい。

2

第十一講・確認テスト

かくにん

次の説明に当てはまるものを選びなさい。

1 短歌は何音から成り立っていますか。

ア 三十一音 イ 三十二音
ウ 三十三音 エ 三十四音

2 俳句は合計何音ですか。

ア 十五音 イ 十六音
ウ 十七音 エ 十八音

次の季語の季節を選びなさい。

3 朝顔

ア 春 イ 夏 ウ 秋
エ 冬

4 大根

ア 春 イ 夏 ウ 秋
エ 冬

5 みかん

ア 春 イ 夏 ウ 秋
エ 冬

第十一講・近代科学の父 ガリレオ・ガリレイ①（伝記）



一題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

「いつたい、わたしに何を実験して確かめろというのですか。」

自分の研究したことを発表している学生が、あきれたような顔で言いました。

ここはイタリアのピサ大学です。今、物が落ちる

5

ときの速さについての議論が行われているのです。

そのころの大学では、学士や博士の資格を取ろうとする者は、大学の中の広場で、自分の研究について発表しなければなりません。発表の日には、やりこめてやろうとする者が、どつと、広場に集まつてきます。それらの人々と議論をして、だれにも言い負かされなければ、合格ということになるのです。

「いいですか。すべての物は、この大地にふくまれ

10

ている物でできています。だから、母である大地に帰ろうとするのです。重い物は、大地に帰ろうとする物がたくさん集まつてできています。だから、軽い物よりも速く大地に帰り着くわけです。重い物は軽い物よりも速く落ちると、アリストテレスが書いていることは、もちろんごぞんじですね。」

その学生は、子供にでも教えるような調子で、ガ

リレオに話しました。

「いや、わたしには、アリストテレスが書いたその説が、疑問なのです。アリストテレスが実験したという証こでもあるのですか。」

ガリレオの言葉に、広場に集まつていた教授や学生がおこり始めました。

「もう、そいつの質問なんか取り上げなくともいい。次の問題に移れ。」

みんなはガリレオには構わず、次の問題の議論に

25

15

15

移つていきました。

しかし、ガリレオには、昔のえらい人が言つたことだからすべて正しいと信じこんでいるみんなの考え方、どうしてもなつとくできませんでした。

（岩崎 明「近代科学の父—ガリレオ・ガリレイ」より）

（1）この場面で、学生は具体的に何について発表しているのですか。文中から十四字でぬき出しなさい。

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

（2）——線「その説」とは、どんな説ですか。次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

は

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

よりも

30

という

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

の説。

（3）

ガリレオは、広場に集まつていた人々とはちがう考え方をもつていました。その考え方について説明した次の文の□に入る言葉としてふさわしいものをあとから一つ選び、記号で答えなさい。ガリレオは昔のえらい人が言つたことを、□と考えていた。

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

ア すべて正しいと信じこむのはおかしい

イ すべてまちがつていると思いこむのはおかしい

い

ウ すべて研究しつくされていると思うのは当然だ

エ すべて研究しなおすのはおかしい

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

一題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

ガリレオは、ふりこを使つて人の脈の速さを測る道具を発明したり、物の重心についての理論^{りりん}を発表したりするなど、めざましい活やくを見せました。ガリレオの名はまたたく間にヨーロッパじゅうに広がり、第一級の天才科学者といわれるようになつたのです。

有名になつたガリレオは、母校のピサ大学に二十五才というわかつで教授にむかえられました。しかし、ほかの教授のように、^①昔のえらい学者の意見を頭から信じて学生に教えるというようなことはしませんでした。

「確かにアリストテレスはえらい学者だ。だからといって、諸君は、ほんとうかどうかわからぬいことまでも信じる必要はない。」

「先生、まさか、アリストテレスの言つていることに、うそはないでしょう。」

おどろいて聞き返す学生に、ガリレオはほほえみながら答えました。

「そうかね、アリストテレスは、重い物は軽い物よりも速く落ちると書いているが、わたしの観察では、これはまちがつていて。」

「えつ。でも、重い物のほうが速く落ちるのは……。」

「わかりきつたことだと言いきれるかね。だれもためした人はいないので、アリストテレスの説ということだけで、信じこんではいかね。」

「先生、アリストテレスの説を疑うなんて、空のお日様の数を疑うようなものだと思いますが……。」
ガリレオは静かに言いました。

「諸君、正しいかどうかを決めるのは実験だ。わたしがそのまちがいを証明してみせよう。諸君の目で、どちらが正しいか見きわめなさい。」

大学の中は大きになりました。教授になりたての青年が、ことある間に、「物理学の神様」といわれるアリストテレスのまちがいを証明してみせ

るというのです。

（岩崎

明「近代科学の父——ガリレオ・ガリレイ」より）

（1）ガリレオが発明したものを、文中から十五字以上二十字以内でぬき出しなさい。

| |
|----|
| 15 |
| 20 |

（2）——線①「昔のえらい学者の意見を頭から信じ

て学生に教えるというようなことはしませんでした」とありますが、ガリレオは何によつて正しいことを教えようとしましたか。文中から二字でぬき出しなさい。

| |
|--|
| |
| |

（3）——線②「アリストテレスはえらい学者だ」と

ありますが、そのためみんなから何とよばれていますか。文中から六字でぬき出しなさい。

（4）——線③「空のお日様の数を疑うようなもの」とありますが、どのようなことをたとえた表現ですか。次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

疑う意味もないほど

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |

を、疑う

ということ。

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |

第十一講・確認テスト
 かくにん

次の季語の季節を選びなさい。

 1 五月雨
 さみだれ

 2 卒業
 ア 春
 イ 夏
 ウ 秋
 エ 冬

ア 春

イ 夏

ウ 秋

エ 冬

 3 枯野
 かれの
 ア 春
 イ 夏
 ウ 秋
 エ 冬

ア 春

イ 夏

ウ 秋

エ 冬

4 たんぽぽ

ア 春

イ 夏

ウ 秋

エ 冬

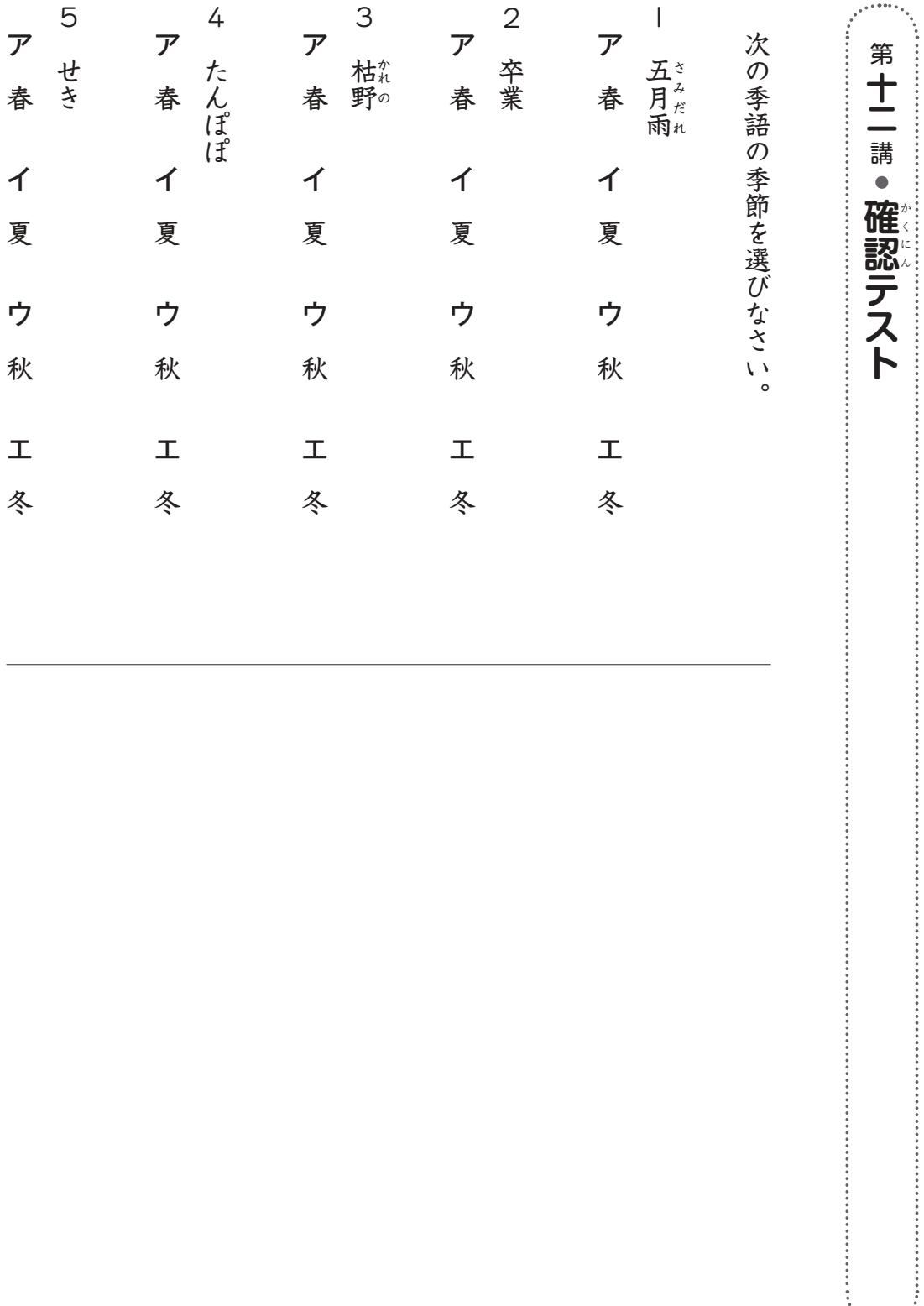
5 セキ

ア 春

イ 夏

ウ 秋

エ 冬



第十三講・近代科学の父 ガリレオ・ガリレイ②（伝記）



一題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

説が、ガリレオにはだんだん信じられなくなってきた。

一六〇九年、ガリレオが四十五才のときのことです。オランダで望遠鏡が作られたといううわさを聞いて、ガリレオは、さつそく自分でも作り、天体の観測を始めました。

「あそこに見える木星の四つの衛星は、木星の周りを回っている。すべての天体が地球を中心に回っているというのはまちがいだ。光りかがやく太陽こそが中心で、地球も木星も太陽の周りを回っているのではないだろうか。」

自作の望遠鏡で夜空をのぞきこんだガリレオは、思わず息をのみました。そこには、ガリレオが今まで思いもしなかった天体の姿がありました。このときから、ガリレオの研究の中心は物理学から天文学へと移り、毎日のように夜空を観察して、新しい発見や研究を次々に発表していったのです。

ガリレオは、木星の四つの衛星を発見しました。観測を続いているうちに、多くの人々に信じられてきた「^②地球はすべての天体の中心である。」という

ガリレオは、観測したことをまとめた『星界の報告』という本を書き、かつてコペルニクスという天文学者が発表した「」という説（地動説）に賛同しました。さらに、いくつかの論文を発表して、地動説をくり返し支持しました。このことが、キリスト教のカトリック教会や、今までの伝統的な科学だけを信じている学者をおこらせ、^③かれらから敵のようににくまれる原因を作つてしまつたのです。

（岩崎 明「近代科学の父—ガリレオ・ガリレイ」より）

(1) 線①「思わず息をのみました」とあります
が、ガリレオが息をのんだのはなぜですか。文中
の言葉を使って答えなさい。

様子。

が

(2)

——線②「『地球はすべての天体の中心である。』
という説が、ガリレオにはだんだん信じられなく
なってきました」とあります。ガリレオは、何
がどうなっている様子を見て、そのように思うよ
うになつたのですか。それぞれ文中からぬき出し
なさい。

に

したこと。

の

(4)

——線③「かれらから敵のようににくまれる原
因」とありますが、ガリレオのどんな行動が原因
となつたのですか。次の文の_____にあてはまる言
葉を、文中からぬき出しなさい。

(3) _____に入る言葉としてふさわしいものを次の
中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 木星は地球の周りを回っている
イ 木星はすべての天体の中心である
ウ 地球は太陽の周りを回っている
エ 地球はすべての天体の中心である

【一題目】次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

「それでも地球は動いている。」

こう言って、自分にとつておそらく最後の仕事になると思われる著作の構想を、ひそかに練り始めたやさき、またもやガリレオを打ちのめすような不^幸がおそってきました。それは思いもかけぬ、むすめのマリアの急死でした。

生きる支えとなっていた最愛のむすめを失ったガリレオは、うつろな目で□すわりこんでいるようになりました。人々は、「さすがのガリレオもこれで終わりだろう。」とささやき合いました。

マリアが死んでから数か月過ぎた、ある日のことです。今日もマリアのことを思いうかべてはなみだをぬぐつているガリレオの耳に、マリアの声が聞こえてきて、それがだんだん大きくひびき始めました。「それでも地球は動いている。それでも地球は動いている……。」

15

10

5

ガリレオは、はつと我に返りました。
「いつまでもこんなことでは、わたしをほこりだと
言つてくれたマリアに申し訳がない。」

年老いた体をむち打つようにして、夜昼となく
机に向かうガリレオの姿^{すがた}が再び見られるようになりました。

こうして、一六三七年、七十三才のときに、物体の運動についての研究をまとめた『新科学対話』^が、どうとう完成しました。

この仕事を終えたころ、ガリレオの両方の目は見えなくなってしまいました。しかし、「実験や観測によつて真実を見いだす」ガリレオの心の目が、多くのでたちに受けつがれ、今日の人類の科学を築き上げてきたのです。

（岩崎 明「近代科学の父——ガリレオ・ガリレイ」より）

30

25

20

(1) 線①「ガリレオを打ちのめすような不幸」とは何でしたか。次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

が

してしまったこと。

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

(2) □に入る言葉としてふさわしいものを次の
中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ぼんやりと イ ゆっくりと
ウ のんびりと エ しつかりと

| |
|--|
| |
|--|

(3) 線②「夜昼となく机に向かう」とあります
が、ガリレオは何のために机に向かったのですか。

次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき
出しなさい。

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

(4) 現代の科学が築かれる上で、ガリレオのどのよ
うな精神が受けつがれてきましたか。「精神。」
に続く形で、文中から十六字でぬき出しなさい。

| |
|-----|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| 精神。 |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

第十三講・確認テスト

次の空欄に「性」「然」「的」「化」のいずれかを入れなさい。

1 進□

ア 性

2 私□

ア 性

3 当□

ア 性

4 消□

ア 性

イ 然

イ 然

イ 然

イ 然

ウ 的

ウ 的

ウ 的

ウ 的

工 化

工 化

工 化

工 化

5 歷□

ア 性

イ 然

ウ 的

工 化

第十四講・「ことわざ、慣用句

1. ことわざ

人々の生活の中から得られた教えや知識などを、短い言葉で表したもの。

例 出るくいは打たれる——出しやばる人は、人

から非難ひなんされる。人よりすぐれた者は、みんなからうらまれる。

どんぐりのせいくらべ——どれもこれも、みんな

んな同じ程度で、特にすぐれたものがいな
いこと。

似た意味のことわざ

次の例のことわざは三つとも、「どんな上手な人でも失敗することがある」という意味を表す。

例

かづぱの川流れ
弘法こうばくにも筆のあやまり
さるも木から落ちる

2. 反対の意味のことわざ

好きこそもの上手なれ——好きなことは熱心にするので、自然

と上達する。

例

下手の横好き——下手なくせに熱心で好きである。



1 次のことわざの意味をあとから選び、記号で答えなさい。

(1) 負けるが勝ち

(2) 帯に短したすきに長し

(3) 灯台もと暗し

(1) イ
イ ちゅうとはんぱで役に立たない。

(2) ウ
ウ 爭うより、相手に勝ちをゆずる方が、よい
結果になる。

(3) ア
ア 身近なことはかえって分かりにくい。

(4) 弱り目にたたり目

ア 泣きつらにはち

イ せいては事をしそんじる

ウ 弘法こうばにも筆のあやまり

エ 馬の耳に念佛

3 次のことわざと反対の意味のことわざをあとから選び、記号で答えなさい。

(1) ねこに小判

(2) わたる世間に鬼おにはない

(3) あとは野となれ山となれ

(1) ア
ア とんびがたかを生む

(2) イ
イ 立つ鳥あとをにごさず

(3) ウ
ウ 人を見たらどろぼうと思え

4

次のことわざの意味と、それと似た意味のことわざをあとからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

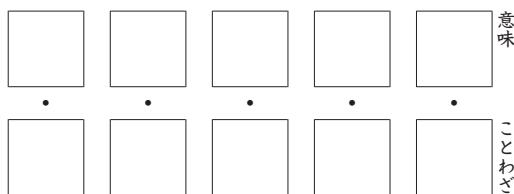
(1) ぶたに**眞珠**
しんじゅ

(2) かえるの子はかえる

(3) 三つ子のたましい百まで

(4) 月とすっぽん

(5) あぶはち取らず



<意味>

ア 幼いころの性質は、年をとつても変わらない。

イ 値打ちのあるものも、人によつては役に立たない。

ウ 二つのものが非常にちがつてゐる。

エ 子は親に似るものである。

オ 二つのものを同時に得ようとして、両方と

も得られない。

<似た意味のことわざ>

力 すすめ百までおどり忘れず
わす

キ 二兎を追うものは一兎をも得ず
にと

ク うりのつるになすびはならぬ
ちようちんにつりがね

コ ねこに小判

5

次のことわざと反対の意味のことわざをあとから選び、記号で答えなさい。

(1) たなからばたもち

山椒さんじょうは小粒こつぶでもぴりりとからい

(2) せいては事をしそんじる

ア 九死に一生を得る

イ 口はわざわいの門かど

ウ 枯れ木かかも山のにぎわい

エ うどの大木

オ まかぬ種たねは生えぬ

力 先んずれば人ひとを制せいす

2. 慣用句

二つ以上の言葉が結びつき、特別な意味を表すもの。

① からだの部分に関係がある慣用句

例 頭が下がる——相手をうやまう。

目がない——非常に好きである。

口がかたい——秘密を守って話さない。

手も足も出ない——どうすることもできない。

い。

② その他の慣用句

例 水に流す——過去のことを忘れ、なかつた

ことにする。

虫がいい——自分にばかり都合のいい考えをする。

1

次の慣用句が下の意味になるように、□にあてはまる漢字を□から選び、書きなさい。

顔 目 耳 口 手

□を丸くする→おどろいて目を見開く。

(1) □

(2) □

(3) □

(4) □

(5) □

をそろえる→みんなが同じことを言う。

を焼く→もてあます。

が痛い→欠点を言われ、つらい。

にどろをぬる→はじめをかかせる。

2

次の文には、慣用句が使われています。文の意味を考え、□にからだの部分を表す漢字を書きなさい。

(1)

暴れまわる子どもには、ほんとうに□を

焼いた。

(2)

かれは、勉強ができるることを□にかけて

(3) 昨日の試験は難しくて、□が立たなかつ

いる。

た。

3

次の意味の慣用句をあとから選び、記号で答えなさい。

(1) 何度も聞かされ、うんざりする。

(2) いいかげんにその場をごまかす。

(3) 打ちとけて気楽につき合える。
(4) たくさんの中り合いがいる。

ア 耳にたこができる
ウ お茶をにごす
オ さじを投げる

イ 顔が広い
エ 肩を並べる
オ 気が置けない

□ □ □ □

4

次の慣用句の表す意味をあとからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

(1) のどから手が出る

(2) 虫がいい

(3) くぎをさす

ア まちがいのないように、前もって念をおす

こと。

イ 欲ほしくてたまらないこと。

ウ 自分にばかり都合のよい考えをすること。

エ 手ごたえのないことのたとえ。

(1)

(2)

(3)

5

次の文には、慣用句が使われています。文の意味を考えて、□に体の部分を表す漢字を書きなさい。

い。

(1)

うつかり

をすべらせて、計画を知られ

てしまつた。

(2)

何度も現場へ

を運んで調べた。

(3)

君の力が必要だ。ぜひ、

を貸してほしい。

第十四講・確認テスト

次のことわざの空欄を埋めなさい。

1 () もと暗し

ア 電気 イ ライト
ウ 灯台 エ 電柱

2 () が勝ち

ア 負ける イ 勝つ者
ウ 急ぐ エ はやる

3 () 目にたたり目
ア 泣き イ 弱り
ウ 痛い エ 悲しい

4 () はち取らず

ア はち イ あぶ
ウ ちょう エ 虫

5 () 百までおどり忘れず

ア がちょう イ くわがた
ウ ちょう エ すづめ

第十五講・文の組み立て

1. 主語と述語

① 主語……文の中で「何が」「だれが」にあたる言葉。

る言葉。

例 雨が ザーザー 降る。

主語……雨が

兄は クラスの 人気者だ。

主語……兄は

② 述語……文の中で「どうする」「どんなだ」などにあたる言葉。

例 雨が ザーザー 降る。

述語……降る

兄は クラスの 人気者だ。

述語……人気者だ

2. 主語と述語の関係

主語と述語は、文のほね組みになる。

① 何(だれ)が——どうする：述語は主語の動作を

例 姉が 運動場を 走る。

何(だれ)が——どんなだ：述語は主語の様子を表す。

例 夕焼けが 美しい。

する。

③ 何(だれ)が——何だ：述語は主語を断定・説明

する。

例 父は 消防士だ。

述語……消防士だ



1 次の文の主語と述語をそれぞれぬき出しなさい。

(1) 母が弟にノートを買った。

| | |
|----|----------------------|
| 主語 | <input type="text"/> |
| 述語 | <input type="text"/> |

(2) 今年の冬はとても寒い。

| | |
|----|----------------------|
| 主語 | <input type="text"/> |
| 述語 | <input type="text"/> |

(3) 部屋に入るとポスターがある。

| | |
|----|----------------------|
| 主語 | <input type="text"/> |
| 述語 | <input type="text"/> |

2 次の文の主語と述語をそれぞれぬき出しなさい。

(1) 祖父はとても有名な作家だった。

| | |
|----|----------------------|
| 主語 | <input type="text"/> |
| 述語 | <input type="text"/> |

(2) わたしの友人こそ委員長にふさわしい。

| | |
|----|----------------------|
| 主語 | <input type="text"/> |
| 述語 | <input type="text"/> |

3 次の文のほね組みの型をあとから選び、記号で答えなさい。

(1) 新しい校舎はとてもきれいだ。

| | |
|----|----------------------|
| 主語 | <input type="text"/> |
| 述語 | <input type="text"/> |

(2) あちらの男の人が新任の先生だ。

| |
|----------------------|
| <input type="text"/> |
|----------------------|

(3) 花子さんは図書館でよく本を借りる。

| |
|----------------------|
| <input type="text"/> |
|----------------------|

(3) 学校の屋上には鳥の巣がいくつもあつた。

| | |
|----|----------------------|
| 主語 | <input type="text"/> |
| 述語 | <input type="text"/> |

ア 何(だれ)が—どうする
イ 何(だれ)が—どんなだ
ウ 何(だれ)が—何だ

| |
|----------------------|
| <input type="text"/> |
|----------------------|

4

次の文のほね組みの型をあとから選び、記号で
答えなさい。

(1) ここから 見た 夕日は とても きれい
だ。

(2) さつきの 地しんで 本だなが たおれた。

(3) 祖父の 健康の 秘けつは 毎日の 運動
だ。

ア 何(だれ)が—どうする
イ 何(だれ)が—どんなだ
ウ 何(だれ)が—何だ

3、修飾語

修飾語は、文の中でほかの言葉をくわしく説明する言葉。ほかの言葉をくわしく説明することを修飾するという。

① 名前を表す言葉を修飾する

例 母が 大きな 皿を 買つた。

② 動きを表す言葉を修飾する

例 山田先生は 車を 運転する。

一つの言葉に対して修飾する語が一つであることは限らない。

例 年老いた 黒い 犬が ほえている。

1

次の二線の言葉が修飾している言葉はどれですか。——線部の中から選び、記号で答えなさい。

(1) 明日の ^ア社会科の ^イ授業で ^ウパン工場に ^エ行く。

(2) 友達は ^ア家で ^イ大きな ^ウ魚を ^エ飼つて ^イいる。

(3) 母は ^アおいしい ^イケーキを ^ウたまに ^エ作る。

(4) はりきつて ^ア早朝に ^イ犬と ^ウ散歩に ^エ出かけた。



[2]

次の——線の言葉を修飾している言葉をぬき出しなさい。ただし、(3)(4)は二つぬき出しなさい。

(1) 友達と 難しい 問題に ちょうどせんした。

(2) 雪の 日の 公園は とても 静かだつた。

(3) 二人の 弟たちと 野球の 試合を 見た。
(4) 昨日 わたしの 父が アメリカから 帰国した。

[3]

次の＝線の言葉が修飾している言葉をぬき出しなさい。

(1) この 店で 姉の 友達が ひとりで 働いている。

(2) その 美しい 歌声の 持ち主は この インゴだ。

(3) 外国で 買つた かばんが もう こわれた。

4

次の――線の言葉を修飾してある言葉をぬき出しなさい。ただし、二つ以上ある場合は、すべてぬき出しなさい。

(1) あちらの 大きな 白い 建物が 市の 美術館です。

(2) 夏休みの 宿題が たくさん ある。

(3) 昨日の 野球の 試合で 弟が ひざを ひどく すりむいた。

(4) おじの 所有する ビルで ねずみが 大量に 発生した。

第十五講・確認テスト

次の空欄に言葉を入れて慣用句を完成させなさい。

1 () が合う

ア ぶた イ 馬 ウ 牛 エ 犬

2 () が立たない

ア 齒 イ 手 ウ 足 エ 鼻

3 () が広い

ア 額 イ 耳 ウ 口 エ 顔

4 () が置けない

ア 心 イ 足 ウ 気 エ 手

5 () をすべらせる

ア 足 イ 手 ウ 口 エ 鼻

第十六講・「ことばの種類

1、名詞

ものや事がらの名前を表す言葉を名詞という。

次のような言葉も名詞の一種である。

- 人や国などの名前：南さん、東京タワー、フランスなど

- 数を表す言葉：一つ、二円、三人 など

次の例の——線部はすべて名詞。

例 木村先生の家から学校へ行くとちゅうに大きな公園がある。その公園の名前は、二コ二コ公園で、二本の高い木が目印だ。

1

い。

| | | | | |
|----|-----|--------|------|-----|
| ア | エ | オ | イ | ウ |
| 絵画 | 二人 | 白菜 | 夕焼け | しかし |
| 勉強 | ク | 力 | 力 | 百歳 |
| サ | にげる | 百歳 | イタリア | |
| 弁当 | シ | ベートーベン | | |



2. 動詞

動きや存在などを表す言葉を動詞という。動詞は言い切りの形のときウ段で終わる。

例 今から学校へ行く。

兄の部屋には新しいパソコンがある。

◆あとにつく言葉によって形が変わる。

例 行く→まだ学校には行かない。

ある→わたしの部屋にはピアノがあります。

2 次の文の中から動詞をすべて選び、言い切りの形で書きなさい。

(1) 早く起きたので、わたしはゆっくり歯をみがいた。

(2) かれは宇宙人の存在を信じて、毎日、空をじつと見る。

(3) アメリカに行きたいが、飛行機に乗るのがこ

わい。

3、様子を表す言葉

「い」で終わるものと、「だ」で終わるものがある。

① 「い」で終わる様子を表す言葉 || 形容詞

例 入道雲をながめるのは楽しい。

井戸の水はとても冷た。

◆あとにつく言葉によって形が変わる。

例 楽しい→今年の遠足は楽しくなった。

冷たい→足が冷たければ、くつ下をはけばよい。

② 「だ」で終わる様子を表す言葉 || 形容動詞

例 君の話はいつもおおげさだ。

まりちゃんのいない教室は、いつもより静かだ。

◆あとにつく言葉によって形が変わる。

例 おおげさだ→姉はおおげさにおどろいた。

静かだ→静かな村に、タヌキが現れた。

3

次の言葉にあてはまるものをあとからすべて選び、記号で答えなさい。

(1) 名詞

(2) 動詞

(3) 様子を表す言葉

| | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|
| ア | 元気だ | イ | 一点 | ウ | 三千円 |
| エ | 古い | オ | 伝える | エ | 必要だ |
| キ | 発言 | ク | 知る | | |

| | | |
|--|--|--|
| | | |
|--|--|--|

4

次の文の——線の言葉の種類をあとから選び、記号で答えなさい。

(1) 寒い^①夜にはおでんが^②おいしい。

①
②

(2) 勉強する前に、部屋のそ^うじを^②始めた。

①
②

(3) この川の^①流れは、とても^②ゆるやかだ。

①
②
③

(4) 二つの^①新しい^②ボールが校庭に^③ある。

①
②
③

ア
イ
ウ
様子を表す言葉
名詞
動詞

ア
イ
ウ
様子を表す言葉
名詞
動詞

5

次の文の——線の言葉の種類をあとから選び、記号で答えなさい。

(1) 試験の^①前日に^②のんきにテレビを見てはいけない。

①
②

(2) 速く^①走りたければ、手足を^②なめらかに動かすべきだ。

①
②
③

(3) 一人の^①有名な^②ピアニストが^③イタリアから来日した。

①
②
③

第十六講・確認テスト

次の空欄に言葉を入れて慣用句を完成させなさい。

1 () であしらう

ア 目 イ 手 ウ 鼻 エ 足

2 () を長くする

ア 足 イ うで ウ 鼻 エ 首

3 のどから() が出る

ア 目 イ 手 ウ 足 エ うで

4 () をなでおろす

ア 胸 イ ひざ ウ 腹 エ こし

5 () に火が付く

ア つめ イ 足 ウ しり エ うで

第十七講・バイオリンと歩むなかから（隨筆）



一題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

プラハの音楽アカデミーに入つて、初めての実技（私にとつてはバイオリン）の試験があつたときのこと。それは、立派なシャンデリアがいくつも輝く小ホールで行なわれた。正面に白髪の教授陣がズラッと居並ぶ客席を前にステージに立つた私は、最大の準備を重ねてのぞんだにもかかわらず、やはり百パーセント自分の実力を発揮^{はつき}できず、我ながらがつかりした。私は、友人たちに「どうだつた？」ときかれるたびに「うまく弾けなかつた」と繰り返^{かえ}し、「あなたは？」と相手にきくと、みんなが「私はよく弾けたと思う」と答えるので、ますます悲しくなつてしまつた。

休憩時間に、私はバツタリ自分の先生と会つてしまつた。

10

5

まつた。この時ほど私は「穴があつたら入りたい」と自分をみじめに思い、と同時に、熱心に指導してくれた先生には「^①申しわけない」と思ったこともなかつた。私は息もつかずに、ありとあらゆる言葉をさがして先生に謝^{あやま}ろうとした。ところがそんな私を見て先生はびっくりし、途中で言葉をさえぎると、こういわれた。「おめでとう。あなたはとてても良い点をとれましたよ。そして、自分がへたに弾けてしまつたなどと決して人前でいつてはいけません。自分の欠点は自分がいちばん良く知つているのですし、知つていなくてはならないのです。でも、他人に向かつてそれをいいふらすことは、何の役にも立ちません。さあ堂々と、私は立派に弾けました、^②といつてごらんなんさい。」と。日本では、他人の前で自分を^{ひげ}卑下^{ひげ}して、いうことが美德とされてい

25

15

だと思うが、その反面、もし失敗しても、初めから謝つてしまえば許される、という甘えがあるとはいえないだろうか。たとえ失敗をしても、その全責任を自分が背負って、他人には絶対に泣き言などいわない、というヨーロッパ人の考え方は、私たちよりずっと自分自身にとつて厳しいことなのだ、とそれ以来、私は思うようになつた。

（黒沼
ユリ子）

「バイオリンと歩むなかから」より

*卑下する||自分が人よりもいやしいとか、おとつているとか思つている様子。

(1) — 線①「申しわけない」とあります。なぜそう思つたのですか。ふさわしい理由を次のなから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 先生が熱心に指導してくれたのに、ステージで自分の実力を發揮できなかつたから。

イ みんなが「よく弾けたと思う」と答えるのを聞いて、だんだん自信をなくしてしまつ自分がなされなかつたから。

ウ 先生の熱心な指導にもかかわらず、最大の準備を重ねなかつたために、ステージで思うように弾けなかつたから。

エ ありとあらゆる言葉を探して先生に謝ろうとしたのに、先生に通じず、途中でさえぎられてしまつたから。



(2)

——線②「日本では……美德とされている」について、次の問いに答えなさい。

あ 日本でそのように考えられているのは、「お

ごる心を戒める」と同時に、どんな考えがある
からだと筆者は思っていますか。文中の言葉を
使って答えなさい。

① ヨーロッパ人は自分の失敗についてどんな考
え方をしていると筆者は思っていますか。「……
という考え方。」に続く形で、文中からぬき出
しなさい。

② ①を知つて筆者はどう思うようになりました

か。「……と思つた。」に続く形で、文中の言葉

を使って答えなさい。

——
と思つた。

第十七講・確認テスト

かくにん

次の中から主語をぬき出しなさい。

1 今日の ばんごはんは 牛肉の ステーキだ。

2 姉が 運動場を ゆっくり走っている。

3 橋に かかる タ焼けが 美しい。

4 ぼくの 母は 学校の 先生だ。

5 地しんで たおれてしまつたのか、 私だ。

第十八講・支え合ひ仲間（論説文）

ろんせつぶん

一題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

1 君たちの周りに友達がいる。

いつも楽しく遊んでくれる友達がいる。心を許して何でも話し合える友達がいる。困ったとき、すぐ相談にのってくれる友達がいる。くじけそうになつたとき、声をかけてはげましてくれる友達

5

がいる。うれしいとき、いつしょに喜んでくれる友達がいる。悲しいことに出あつたとき、やさしくなぐさめてくれる友達がいる。くやしいと思つたとき、いつしょに腹^{はら}を立ててくれる友達がいる。

10

2 いつも楽しく遊んでくれる友達がいる。心を許して何でも話し合える友達がいる。困ったとき、すぐ相談にのってくれる友達がいる。くじけそうになつたとき、声をかけてはげましてくれる友達

5

がいる。うれしいとき、いつしょに喜んでくれる友達がいる。悲しいことに出あつたとき、やさしくなぐさめてくれる友達がいる。くやしいと思つたとき、いつしょに腹^{はら}を立ててくれる友達がいる。

20

3 このように、君たちの周りには、いっぱい友達がいる。いっぱいの友達のなかで生きているからこそ、ときには争いごとがある。友達はいつも自分と同じ考え方をもつてているとはかぎらない。自分

25

と同じことに心を動かすとはかぎらない。自分と同じことをしたがつてているとはかぎらない。自分とちがう意思や感情をもつてている。だから、自分の思いどおりにならないことがある。感情的になつてむしように反発してみたくなることがある。友達なんかいないほうがいいとさえ思うことがある。みんなのなかにいることがやりきれなくなるときがある。

4 自分一人だつたら、自由に何でも思いどおりにできるかもしれない。歌いたくなつたら歌えればいい。笑いたくなつたら笑えればいい。悲しくなつたら、だれにえんりょせすになみだを流せばいい。つかれて休みたくなれば、いつでも自由に休むことができるかもしれない。食べなくなつたら、腹いっぱい食べることができるかもしれない。じやまする人はいない。自由気ままにふるまうこと

15



できる。

【5】でも、ほんとうに独りぼっちだつたら、どんなに上手に歌えても、「上手だね。」と、歌を聞いてくれる人はいない。うれしいことがあっても、いつも喜んでくれる人もいない。悲しいことが

あっても、悲しい思いを打ち明ける相手もない。困つたことがあっても、相談する人はどこにもいない。がんばつて働いても、「ご苦労様。」と、声をかけてくれない。おいしいごちそうを食べて

も、「おいしいね。」と、言葉をかわす人もいない。どんなに急な坂道を登つても、「よくがんばつたね。」と、ほめてくれる人もいない。

【6】

友達がいなければ、みんなで仕事を分け合うことはできない。力を合わせて働くことはできない。はげまし合うこともできない。遊び合うこともできない。うれしさも、悲しみも、みんな自分の胸におさめておくしかない。話し合う自由も、はげまし合う自由もない。独りぼっちは自由のようだが、ほんとうは不自由なのだ。

45

40

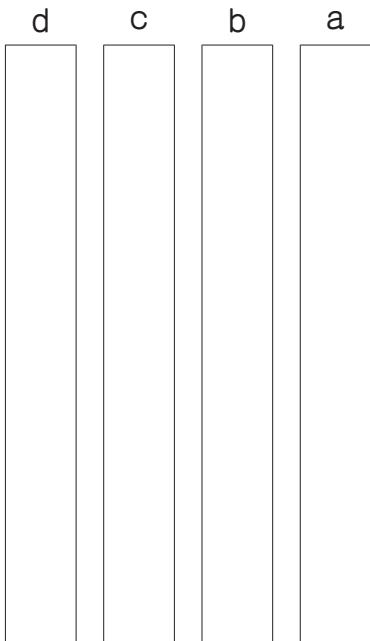
35

30

【7】やつぱり、みんなのなかで、みんなと生きているほうが楽しく張り合いがある。少しがまんしても、ちょっぴり不自由に思えても、みんなと過ごすほうがいい。

（田宮 輝夫「支え合う仲間」より）

(1) 線「ときには争いことがある」のはなぜですか。その理由をまとめた次の文の□a～dにあてはまる言葉を、文中からそれぞれぬき出しなさい。



友達は自分と□a 意思や感情をもっているので、自分の思いどおりには□b ことや、□c になつて□d してみたくなることもあるから。

(2) 6段落の中で、筆者の考えをまとめている文をぬき出しなさい。

(3)

筆者の意見を述べている段落はどこですか。段落番号で答えなさい。

第十八講・確認テスト

かくにん

次の文から述語をぬき出しなさい。

1 ぼくは 友だちと 算数の 宿題に と

りかかつた。

2 姉と いつしょに 映画を 見た。

3 昨日 父が 旅行から 帰った。

4 美しい、 早起きして 見る 朝焼けは。

5 母は はりきつて お弁当を 作つた。

第十九講・ぼくの世界、きみの世界（論説文）



ろんせつ

一題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

1 わたしたちは、一人一人別々の心をかかえ、相手のことなどわからないまま生きていくしかないのだろうか。 **A** 、人と人は、永遠に理解し合えないのだろうか。

2 そうではない、とぼくは思う。

チボール」をしているとき、きみは、友達が、きみと同じようにこのアニメが大好きで、うれしくて気持ちをはずませていてることを、**疑い**はしないだろう。

3 例えは、きみと友達が、好きなアニメについて夢中になつて話しているとしよう。きみが、「あの登場人物は、こういうところがかっこいいよね。」と言ふと、友達も、「そうそう、それにこういうところもいいよ。」と言葉を返してくる。きみが、「前回の話はおもしろかったよね。」と言えば、友達は、「あそこがよかつたよね。」と返してくれるだろう。そのように、二人で「言葉のキャツ

10 5 20 25

4 もちろん、相手がうれしがつているふりをしている可能性もあるが、二人で夢中になつて話をしてもりあがつていて、そのような疑いをもつことはない。疑いをもつとしたら、作り笑いの表情が見えたり、言葉のはしばしから、「あれ、変だな。無理しているみたいだ。」と感じたりした時だけだ。

5 また、『』をしていると、自分と相手が同じように感じているところだけではなく、それぞれの感じ方のちがいに気づかされることもある。

6 しかし、これは、おたがいがわかり合えない、

ということではない。むしろ、おたがいのちがいがわかつた、ということなのだ。B、もう

①もう

(1) 『 』にあてはまる言葉を、文中から十字でぬき出しなさい。

少し相手の気持ちを知りたくなつたら、「どうして?」とか「どんな感じ?」というふうにたずねてみればいい。たずね合うことで、わたしたちは少しずつ、おたがいの気持ちの細かいところもわかつていく。

7

おたがいの心を百パーセント理解し合うことは不可能だとしても、言葉や表情をやりとりすることによって、わたしたちは、それなりに心を伝えたり受け取つたりしているのである。

〔西 けん〕「ぼくの世界、きみの世界」より

35

30

40

(2)

3 段落のアニメのおもしろさの例は、筆者が何を説明するために用いたものですか。ふさわしいものを次のなかから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 子どもはアニメが好きだということを説明するため。

イ 人と人が永遠に理解し合えないことはないことを説明するため。

ウ 夢中になれるものを見つけることの重要性を説明するため。

エ 相手の作り笑いを見ぬくための方法を説明するため。



(3)

A・Bにあてはまる言葉を次の中から
それぞれ選び、記号で答えなさい。

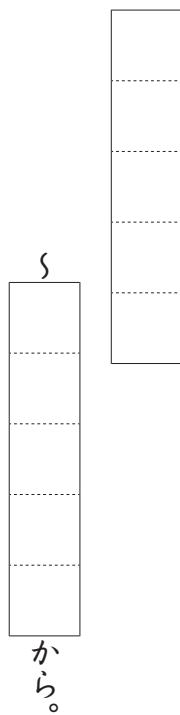
ア だから イ なぜなら ウ つまり

工 しかし オ あるいは



(4)

——線① 「もう少し相手の気持ちを……たずね
てみればいい」とあります。その
理由が書かれている一文を探し、「——から。」に続
く形で、初めと終わりの五字を答えなさい。()
や。をふくまない。)



(5)

この文章で、筆者が最も伝えたかったことは何
ですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、
記号で答えなさい。

ア 人は、自分の思いを伝え合うために、言葉や
表情をやりとりする、ということ。

イ 人は、言葉を用いることで、おたがいの思い
を完全に理解し合うことができる、ということ。
ウ 人は、自分の思いをだれかにわかつてもらう
ことは決してできない、ということ。



第十九講・確認テスト

次の二重傍線部の言葉を修飾している修飾語を選
びなさい。

1 僕は サッカーの 試合で ひざを す

りむいた。

2 が 祖母の 家で たくさんの中 チューリップ

咲いた。

3 黒い プードルが 母の ひざの 上で

寝ていた。

4 ようへいくんの 家は あの 青い 建

物です。

5 父に もらった エンピツが どこにも

ない。

第二十講・豊かさのゆくえ（説明文）

一題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

日本のモノづくり産業が世界チャンピオンになるにあたっては、アメリカやイギリスの年老いた元

チャンピオンを、次つぎと打ち負かさねばなりませんでした。審判の見守るリング上で、人一倍の練習できた日本選手が相手をノックアウトした、と5みる人もいるでしょう。また逆に、アメリカやイギリスの元チャンピオンが、日本の若手選手に道をゆづってくれたにすぎない、とみる人もいます。

どういう世界であれ「^①後進に道をゆづる」とい

う思いやりの風習があるからこそ、世代の交代がスマーズにかなえられるのだし、またモノづくりの現場に若い活力がみなぎるのです。人間の場合には「寄る年波^{としなみ}には勝てない」などといわれるよう個人

10

20

15

差はあるものの、体力そして知力とも、年齢とともに確実に衰えています。だからこそ、会社や官庁には定年制がしかれていますし、また、来るべき高年齢化社会をどうするか、という問題が深刻に問われたりもするのです。

一国の経済的な力もまた、国の年齢とともに衰えたりはしないのでしょうか。もし日本のモノづくり産業の強さが永久につづくならば、韓国、台湾、香港、シンガポール、タイ、中国などの「後進」国。地域はいつたいどうなるのでしょうか。いつまでたっても、これら諸国・地域は日本の^{*}後塵^{こうじん}を拂しつづけなければならぬのでしょうか。

② 繊維、自動車、鉄鋼、造船などの分野で、日本が世界選手権を制覇したのは、七〇年代前半のことでした。なぜ日本の製造業がさまざまな産業分野でチャンピオン・ベルトを手にすることができたかと

25



いうと、一つには、日本の労働力が相対的に安かつたこと、すなわち日本人労働者の給料がアメリカ人やイギリス人のそれにくらべて安かつたことがあげられます。ロボットによる生産の自動化が進む以前には、モノをつくるには人手が欠かせませんでした。原価に占める労働賃金の比率が高いモノづくりにとつては、まじめによく働いてくれる人手を安く使えることが、国際競争に勝ちぬくための、きわめて有利な条件となるのです。欧米諸国に比べての低賃金こそが、六〇年代末の日本の製造業の躍進ぶりを説明する、第一の理由なのです。

もう一つの理由は、日本の製造業のもつ高い技術力です。六〇年代の日本の技術者の課題は、新しい技術を開発するというよりも、欧米に「追いつき追いこせ」すなわち欧米のモノづくりを忠実にまねることだったのです。こうしたタイプの技術開発は、受験生が教科書や参考書の内容を丸暗記して、入学試験の問題を解くのに似ています。いってみれば、「追いつき追いこせ」型の技術開発は、^③日本の得

40

35

30

意技のひとつだったのです。こうして、いつたん技術的な格差が埋められてしまうと、安い□という*メリットが生きてくるのです。

七〇年代も後半にはいると、日本製の自動車や電化製品の性能のよさが際だつようになりました。「追いつき追いこせ」を卒業した日本の技術者は、独創的な製品改良技術を次つぎと生みだすようになったのです。たとえば自動車のガソリン一リットルあたりの走行距離を伸ばす、冷蔵庫の消費電力を大幅に削減する、半導体の記憶容量を増やす、ビデオやファクシミリの値段を下げる、などなどの改良が、日本人技術者の手によつて相次いで成しとげられたのです。

佐和 隆光 「豊かさのゆくえ」より

*後塵を拝す||後れをとる。

*メリット||利点、有利なこと。

45

60

55

111

(2) 一線②「世界選手権を制覇した」とあります
が、それが成しとげられた理由を二つ、それぞれ
二十字以内で答えなさい。

111

(4) □にあてはまる言葉を文中から三字でぬき出しなさい。

(1) 線①「後進に道をゆづる」とあります
これがスムーズに行われるための社会制度の例

(3) 線③ 「日本の得意技のひとつ」の具体的な

(5)

本文の内容としてふさわしくないものを次のなかから選び、記号で答えなさい。

ア 日本の製造業は、七〇年代前半にアメリカやイギリスを追いぬいて世界一になった。

イ 製造業が国際競争に勝ちぬくためには、安い労働力というものが有利な条件となる。

ウ かつてアメリカやイギリスにおける労働の賃金は、日本のそれにくらべて安かつた。

エ 日本の産業が世界一になつたのは、イギリスなどが日本に道を明け渡したという見方もある。



第二十講・確認テスト
 かくにん

次のの中から名詞でないものを選びなさい。

| | | | | |
|-----------|---------|-------|-------|-------|
| 1 ア | ア | 二 人 | イ | 東 京 |
| 2 ウ | ア | 見 る | イ | ね こ |
| 3 ウ | ア | 羊 | エ | か え る |
| 4 ウ | ア | 理 由 | イ | こと |
| 5 ウ | ア | は な し | エ | 動 く |
| ア 大 き さ | ア は な し | 時 | イ 動 き | 走 り |
| ウ 美 し さ | ウ す ご く | | エ | |
| エ 喜 び | イ | | | |
| エ う れ し い | | | | |

第二十一講・古典

1. 古典とは

古い時代に書かれ今に伝えられる、すぐれた作品のこと。日本で書かれたものを古文、中国で書かれたもの（またはそれをまねて日本で書かれたもの）を漢文という。

2. 古典作品を知ろう

① 古文——枕草子（清少納言）

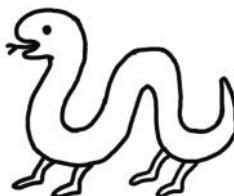
「枕草子」は、今から千年ほど前の平安時代に、清少納言によって書かれた隨筆。

宮中でのできごとや自然について思うことなどが、作者の独自の感性でつづられている。



② 漢文——蛇足

この漢文は、「蛇足」という故事成語のもととなつた話である。「蛇足」は、余計なものやむだな行いを意味する。



【一題目】次の古文と意味を読んで、あとの問に答えなさい。

【古文】

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫むらさきだちたる雲のほそくたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり、やみもなほ、螢ほたるの

多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降ふるものをかし。

秋は夕暮ぐれれ。夕日のさし

て山の端はいと近ちかうなりたるに、鳥からすの寝ねどころへ行くとて、三みつ四よつ、二につ三さんつなど、飛びいそぐさへあはれなり。まいて雁かりなどのつらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。日入りは



15

10

5

てて、風の音、虫の音など、はたいふべきにあらず。冬はつとめて。雪の降りたるはいふべきにもあらず、霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火など急ぎおこして、炭すみもて渡わたるもいとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶ひとうの火も白き灰はいがちになりてわろし。

（清少納言「枕草子」より）

【意味】

春は夜明けがよい。だんだん白くなつていく山ぎわの空が、少し明るくなつて、紫がかつた雲が細くたなびいているのがよい。

夏は夜がよい。月の出ているころは言うまでもなく、やみ夜でもやはり、螢が多く飛びかつているのはよいものだ。また、ほんの一つ二つと、かすかに光りながら飛んでいくのもおもむきがある。雨などが降つてているのもおもむきがある。

秋は夕暮れがよい。夕日が照つて山のはしにたいそう近づくころ、からすがねぐらへ帰ろうとして、

25

30

20

三つ四つ、二つ三つと、せわしく飛んでいくのさえ
も、心がひかれる。まして雁などが連なつて飛んで
いくのが、大変小さく見えるのは、とても風情がある。
日がしづんでしまつてから、風の音や虫の音が
聞こえるのは、また言つまでもなくおもむきがある。
冬は早朝がよい。雪の降つた朝は言つまでもなく
すばらしい。霜が真つ白く降りてゐるのもよい。ま
た、そうでなくともたいそう寒い朝に、火を急いで
おこして、炭を部屋へ持ち運ぶのも、冬の朝にとて
も似つかわしくてよい。昼になつて寒さがゆるんで
いくと、火ばちの火も白い灰ばかりになつていつて、
みつともない。

(1) 作者がよいと思っている時間帯を、季節ごとに

【意味】の文中からぬき出しなさい。



(2) 作者があまりよく思つていはないのは、冬のどの
ようなことですか。次の文の□にあてはまる言
葉を、【意味】の文中からぬき出しなさい。

昼になつて寒さが
なつて
火ばちの火も
こと。
に
いくと、

【二題目】次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

【漢文】

* 楚に祠る者あり。その舍人に卮酒を賜ふ。舍人相謂ひて曰はく、「数人これを飲まば足らず、一人これを飲まば余りあり。請ふ地に書きて蛇を成し、まづ成る者酒を飲まん。」と。一人の蛇まづ成る。酒を引きてまさに飲まんとす。すなはち左手に卮を持ち、右手に蛇を書きて曰はく、「われよくこれが足をなさん。」と。いまだ成らざるに、一人の蛇成る。その卮を奪ひて曰はく、「蛇はもとより足無し。子いづくんぞよくこれが足をなさん。」と。つひにその酒を飲む。蛇の足をなす者、つひにその酒を亡へり。

〔劉向「戦国策」より〕



15

10

楚の国に、祭りを行う人がいた。その人が召使に杯に入った酒をあたえた。すると召使たちは相談して、「数人でこれを飲んだら足りないが、一人で飲めば十分すぎるほどある。地面に蛇の絵を書き、最初に書き上げた者がこの酒を飲むことにしよう。」と言つた。一人の蛇がまづできあがり、酒を引き寄せ飲もうとした。そして、左手に杯を持ち、右手で蛇を書きながら、「わたしはこの蛇に足をかくことだつてできる。」と言つた。その足がかき上がらないうちに、もう一人の蛇ができあがつた。そして杯をうばい、「蛇にはもともと足はない。あなたはどううしてありもしない蛇の足をかくことができるのだ。」と言つた。蛇に足をかいだ者は、どうどう酒を飲むことはできなかつた。

(1) 線①「杯に入った酒」は、どのくらいの量でしたか。次の文の□にあてはまる言葉を、文 中からぬき出しなさい。

飲むなら十分な量。
で飲むには少ないが、
で

(2) 線②「どうどう酒を飲むことはできなかつた」とありますが、それはなぜですか。文中の言葉を使って答えなさい。

(3) この話から生まれた「蛇足」^{だそく}という故事成語の意味を表している絵として正しいものを次のなかから一つ選び、記号で答えなさい。



工

ウ



第二十一講・確認テスト

かくにん

次の傍線部の品詞として、正しいものを選びなさい。（活用されているものもあります。）

1 のんきな

|

ア 名詞

イ 動詞

2 走る

ア 名詞

ウ 形容詞

イ 動詞

工 形容動詞

3 早く

ア 名詞

ウ 形容詞

イ 動詞

工 形容動詞

4 一時

|

ア 名詞

ウ 形容詞

イ 動詞

5 起きて

|

ア 名詞

ウ 形容詞

イ 動詞

工 形容動詞

第二十二講・愛を運ぶ人 マザーテレサ①(伝記)



一題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

テレサは、一九一〇年に、現在のマケドニアの首都であるスコピエという町に生まれました。

小さな薬屋を営む両親のもとに、三人きょうだいの次女として生まれたのですが、四才のとき、父親にこんな質問をしたことがあります。

「お父さん、うちには貧しい人に効くお薬は、売つていないので。」

すると、父親はテレサにこう答えました。

「貧しい人、困っている人に効く薬はまだないんだよ。おまえが、そういうお薬を発明してくれると、うれしいね。」

そのテレサは、十二才のとき、一冊の本を読みました。それは、十二世紀のイタリアに生まれた、神

に仕える修道者フランシスコについて書かれた本です。貧しい人や病気の人、特に、その当時流行していたハンセン病のかん者のために、献身的に奉仕したフランシスコの文章にふれたとき、テレサは心にかかったのです。

わたしも、自分だけの楽しみや幸せのために生きるのではなく、フランシスコのように、すべての人々を愛し、神に一生をささげる生き方をしよう、と。

十八才になつたテレサは、修道院に入り、インドのカルカッタにわたりました。そして、二十一才で正式の修道女になりました。その後、修道院の経営する女学校の先生となり、三十代には校長も務めることになつたのです。

〔千葉 茂樹「愛を運ぶ人 マザーテレサ」より〕

(1) テレサはいつ、どこで生まれましたか。それぞれ答えなさい。

いつ

どこで

(2)

——線「一冊の本」について、次の問いに答え

なさい。
Ⓐ だれについて書かれた本でしたか。名前を答
えなさい。

(3)

三十代になつたテレサの職業を、文中の言葉を
使って六字で答えなさい。

(4)

この本を読んだあとにテレサが決心した内容
を表している部分を文中から一文でぬき出し、
初めの五字を答えなさい。(、や。も一字と数
えます。)

一題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

一九四七年、インドの独立の際、混乱の中^{こんらん}でカルカッタは破かいされ、街には、家を失った人々や、うえた人、病気の人々が、あふれ出ました。同じ人間なのに、家族からも見捨てられ、道ばたで死んでいく貧しい人々——テレサは、この情景を見て、もうじつとしていられない気持ちにかられたのです。

三十八才で校長の仕事をやめると、テレサは、貧しい人々の街へと入っていきました。そして、まず、スラムの子どもたちのための学校や、孤児^{こじ}の家を作り始めたのです。そのテレサのもとには、十二名の修道女たちが次々にかけつけ、その仕事を手伝いました。

一九五二年の真夏の暑い日のことでした。カルカッタの八月は、焼けつくような太陽が照りつけ、風がありません。お昼を過ぎると、あまりの暑さに、

15

10

5

街の中は人通りもなく、死んだようになります。
今、そのカルカッタの中央駅に向かって、テレサが歩いています。あるところに、大事な相談をするために行こうとしていたのです。

ところが、駅近くの広場にさしかかったところで、^②テレサは思わず足を止めました。道ばたに、一人のおばあさんが横たわり、死にかけているではありますか。道を行く人は、だれも見向こうともしません。

「おばあさん、しつかりして。」

テレサは、とつさにおばあさんに声をかけると、呼^こ吸^{きゆう}と脈を確かめました。おばあさんは、まだかすかに息をしています。生きているのです。でも、このままではまもなく死んでしまうのは確かです。

〔千葉^{ちば}茂樹^{しげき}「愛を運ぶ人 マザーハテレサ」より〕

25

20

(1) — 線① 「もうじつとしていられない気持ち」

について、次の問いに答えなさい。

あ このような気持ちになつたテレサは、何をし

ようと思ったのですか。次の□に入る言葉

を考えて五字以内で答えなさい。

貧しい人々を□と思つた。

い ① あのように思つたテレサは、初めに何をしましたか。具体的に書かれている部分を文中からぬき出しなさい。

(2) — 線② 「今」とは、いつですか。文中から十二字でぬき出しなさい。

(3)

— 線③ 「テレサは思わず足を止めました」とありますか。なぜですか。その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大事な相談をする約束がなくなつてしまつたから。

イ 戦争でカルカッタの街が破かいされていたから。

ウ 道ばたが死んでいく貧しい人々であふれていったから。

エ 道に死にかけたおばあさんが横たわつていたから。

第二十一講・確認テスト

かくにん

次の傍線部の品詞として、正しいものを選びなさい。（活用されているものもあります。）

1 見|たい

イ 動詞

ア 名詞

ウ 形容詞

2 田中|さん

ア 名詞

ウ 形容詞

イ 動詞

工 形容動詞

3 着|ていた

ア 名詞

ウ 形容詞

イ 動詞

工 形容動詞

4 正|しかつた

イ 動詞

ア 名詞

ウ 形容詞

工 形容動詞

5 静|かだろう

イ 動詞

ア 名詞

ウ 形容詞

工 形容動詞

第二十三講・愛を運ぶ人 マザーテレサ②（伝記）



一題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

街の中には、何日も、食べ物もなく、病気のままでおれ、だれからもやさしい声一つかけられずに、苦しみにたえている人たちがあふれていきました。その全部を救済することは、すぐにはできません。ですから、□と思われる人から順番に、修道女たちは運び続けたのです。そして、第一日目だけで、三十人近い病人が集められました。

長い長い間、路上にねたり起きたりしてきた貧しい人々は、このときから、安心して体を休める場所があたえられたのです。

でも、その日運びこまれた病人のなかには、夕方になつて、静かに息を引き取つたベンガル人もいました。

「ありがとう。」

そのベンガル人は、死んでいくとき、一言そう言つて、ねむりについたのです。そのそばには、修道女が、最後のしゆん間まで手をにぎりしめ、はげまし続けていたのです。もし、このベンガル人が、この休けいの家に運ばれなかつたらどうでしょうか。^②どんな最期をむかえだでしようか。

みんなのなかには、どうせ助からない、死にかけている人を助けようとしても、そんなことはむだなことだと考える人がいるかもしません。カルカッタでは、毎日のように、道ばたやスラムで、おなかをすかした人や病気の人が死んでいきました。一人や二人を助けてもしかたがないと思う人もいるでしょう。

でも、このときテレサが考えたことは、少しちがいます。

③ でも、このときテレサが考えたことは、少しちがいます。

わたしたち人間の本当の不幸は、貧しいことや、病気や空腹^{くうぱく}で死ぬことではない。本当に不幸なことは、貧しかつたり病気だつたりするために、だれからも相手にされないことだ。みんなから見捨てられて、さびしい思いに追いやられることが、いちばんつらい不幸なことだ。そうテレサは考えたのです。

〔千葉 茂樹^{ちば しげき}「愛を運ぶ人 マザーハーテレサ」より〕

30 35

(1) に入る言葉としてふさわしいものを次の
中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア いちばん貧しく、いちばん苦しんでいる
イ とても貧しいけれども、体はまだ健康である
ウ 貧しくはないけれども、病気で苦しんでいる
工 いちばん豊かで、お金を持っている



(2) — 線①「安心して体を休める場所」とは、どこですか。文中から五字でぬき出しなさい。

(3)

——線②「どんな最期をむかえたでしょうか」とあります。が、考えられる「最期」を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 家族みんなに看取^{みと}られる、おだやかな最期。
イ だれからも声一つかけられない、孤独^{こどく}な最期。
ウ テレサにしか気づかれない、ひそやかな最期。
工 修道女がはげまし続けてくれる、幸せな最期。



(4)

——線③「このときテレサが考えたこと」を説明した次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

本当の不幸とは、貧しさや□のせいで

る。

みんなから見捨てられ、□

ことであ

【一題目】次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

貧しい人や、病気の人、弱っている人たちに向かって、死んでいく最後の最後まで、手を差しのべるこどが、どんなにその人を幸せにするかしれないのです。今死にかけている人であっても、

「あなたには、もつともつと生きてほしい。あなたも、この世に生まれて生まれてきた、たいせつな人なのですよ。」

と、最後まではげましてあげること、それがたいせつなことなのです。たとえ一人でも二人でも、^①そ^②うして救つてあげることがたいせつなのです。

休けいの家に運ばれて、初めの日に死んでいったベンガル人は、若い修道女に見守られながら死んでいきました。

「^③ありがとう。」

ベンガル人は、たつたそれだけを言い残すことができたのです。それでも、幸せだったといえるのでは

ないでしょうか。なぜなら、もし道ばたで死んだとしたら、そのベンガル人の死を悲しんでくれる人は、だれもいなかつたにちがいないからです。「ありがとうございます。」という言葉は、初めて人間としてあつかわれた貧しい人の、せいいっぱいの喜びの声だったのです。

こうして、テレサが修道女たちと始めたこの休けい所は、いつか、「死を待つ人の家」と呼ばれるようになります。しかし、この呼び名は、本当はちがいます。この家は、一九五二年八月に、正式に始まりました。そのとき、入り口には、「ニルマル・

ヒル・ダイ」と書かれた看板^{かんばん}がかけられたのです。それは、ベンガル語で「清い心の家」という意味です。
△千葉茂樹「愛を運ぶ人 マザーハテレサ」より

(1) ——線①「そうして救つてあげること」とは、どうすることですか。文中から二十二字でぬき出しなさい。(、や。も一字と數えます。)

(2)

（2） 線②「休けいの家」の日本語での正式な名前は何でしたか。また、後にはどのような呼び名で呼ばれるようになりましたか。それぞれ文中からぬき出しなさい。

呼び名

正式な名前

11 of 11

10 of 10

示す気持ち。

ことに対する

七

——線③「ありがとうございます。」とあります。これがベンガル人のどのような気持ちの表れから出た言葉でしたか。次の文の□にあてはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

第二十三講・確認テスト

かくにん

次の言葉の類義語を選びなさい。

1 去年

ア 昨年
ウ 今年
イ 来年
エ 一昨年

2 賛成

ア 反対
ウ 参加
イ 同意
エ 絶賛

3 関心

ア 感動
ウ 興味
イ 感心
エ 歓心

4 価格

ア 金錢
ウ 金品
イ 値段
エ 価値

5 重荷

ア 重要
ウ 負担
イ 重役
エ 大事

ア 価値
ウ 重役
イ 価値
エ 値段

第二十四講・生き物はつながりの中に、〈勝負脳〉の鍛え方（説明文）



一題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

ロボットのイスと本物のイスをよく見てください。本物のイスは呼吸こきゅうをしています。呼吸は、空気中の酸素を体に取り入れ、二酸化炭素を体から出すことです。えさを食べ、水を飲んで、おしつこやうんちを体から出します。このように、生き物は、外から必要なものを取り入れ、内から不要なものを出して、内と外とで物質のやり取りをしています。

ロボットはどうでしょう。ロボットのイスは呼吸もせず、食べたり飲んだりすることもありません。ただ、動くためにはエネルギーが必要ですから、外から電池を入れ、なくなつたら交換こうかんします。生き物と同じに見えますね。本当に同じでしょうか。

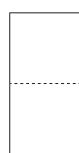
本物のイスが、とり肉を食べたとします。肉は、

主としてタンパク質からできています。タンパク質は、イスの腸で分解されてアミノ酸という物質になります。そして、腸のかべから吸收きゅうしゅうされ、血管を通してイスの体全体に運ばれて、そこで再びタンパク質に組みかえられます。ここで作られるのは、イスの体を作るタンパク質であって、ニワトリのものではありません。あなたが昨日食べたカレーライスのぶた肉は、あなたの体を作るタンパク質に変わつて、今あなたの一部として働いています。つまり、外から取り入れたものが自分の一部になるのが生き物なのです。ロボットの場合、電池がイスの体に変わることは決してありません。電池は電池、ロボットはロボットです。外から取り入れたものが自分の一部になる、そのようなつながり方で外とつながつているのが、 の特徴とくちょうです。

（中村 桂子「生き物はつながりの中に」より）

10 5

(1) — 線 「生き物は、外から必要なものを取り入れ」とありますが、ロボットの場合、必要なものは何ですか。文中から二字でぬき出しなさい。



(2) 本物のイヌがとり肉を食べた場合、とり肉はどのように変化していきますか。次の□にあ

てはまる言葉を、文中からぬき出しなさい。

(3) ロボットが生き物と同じである点を次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

ア 外から必要なものを取り入れる。

イ 動くためのエネルギーを必要とする。

ウ 外から取り入れた物質が変化する。

エ 外から取り入れたものが体の一部となる。

(4) □に入る最もふさわしい言葉を、文中からぬき出しなさい。



とり肉のタンパク質



イヌの腸で

に変わる。

←腸から吸収。血管を通って体全体に運ばれる。

イヌの体を作る

に変わる。



一題目 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

疲労^{ひろう}には体の疲労と脳^{のう}の疲労があります。このうち体の疲労は、安静にしたり、入浴したり、ぐっすり睡眠^{すいみん}をとれば回復しますが、脳の疲労はそう簡単^{かんたん}にはとれません。人間がもつとも疲れを感じるのは

脳が疲労したときです。さきほどのマラソンランナーの例でも、抜いた相手に抜き返されると脳がダメージを受けるために、急激^{①きゅうきょく}に走る力が失われる

のです。

厄介^{やっかい}なことに脳の疲労は運動時のみならず、ふだんの生活でも発生するため、自分では気づかずに脳に疲労をためた状態で練習することになりがちです。すると、なかなか上達しないとか、記録^{②きろく}が伸びないといった悪影響^{あくえいきょう}が発生します。試合をすれば後半に弱くなり、とくに競り合った状態になるといつも結果を残せないという状態になります。「自分は勝負に弱い」と思い込んでいる人は、じつは脳に

15

10

5

疲労をためたまま戦っているだけかもしれません。脳はさまざま言葉で疲労のサインを送つてきます。どうも気分が乗らない、何をするのも億劫^{おつくさ}だ、考えてプレーするのが面倒だ、この競り合いは勝てる気がしない、早く戦いを終わらせたい、などの否定的な□が頭に浮かぶのは、すべて脳の疲労症状^{じょうじょう}です。

では、脳の疲労とは、どのようにして起きるものなのでしょうか。

じつは、そこには心が深く関係しています。いろいろなストレスを抱^{かか}えている、解決しない悩みごとがある、性格が暗くていつも悪い方に考える、技術が上達しないので焦^{あせ}つてている、などの状態にあるとき、脳は疲労を覚えるのです。

（林^{はやし} 成之^{なりゆき}「〈勝負脳〉の鍛え方」より）

30

25

20

(1) 線①「急激に走る力が失われる」とあります
すが、その理由を文中から十二字でぬき出しなさい。

| | |
|--|--|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

(2) 線②「『自分は勝負に弱い』と思いつ込んで
いる人」とあります。このような人はどんな状

態にある可能性がありますか。文中から十字でぬ
き出しなさい。

| | |
|--|--|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

(3) □に入る言葉を、文中から漢字二字でぬ
き出しなさい。

| | |
|--|--|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

(4) この文章の要旨としてふさわしいものを次の
中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 脳の疲労はふだんの生活でも発生し、それを
回復させるために脳はいろいろな言葉で疲労の
サインを送っている。

イ 心になんらかのストレスがかかるとき、脳は
疲労を感じ、その状態になるとなかなかよい結
果を残せない。

ウ 脳の疲労は心と関係しているので、性格が暗
くていつも悪い方に考える人は、だれよりも脳
の疲労を覚えやすい。

エ 体の疲労に比べると脳の疲労は回復しにくく
が、脳が疲労をためこんだ状態でもそれほど疲
れを感じない。

| | |
|--|--|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

第二十四講・確認テスト

かくにん

次の言葉の対義語を選びなさい。

1 平和

ウ ア 喧嘩 口論

2 生産

ウ ア 消化

3 集合

ウ ア 解散

4 戰争

ウ ア 悪化

工 イ 別解

工 イ 消防

5 結果

ウ ア 理由

ウ ア 停止

6 運動

ウ ア 転換

ウ ア 抑止

7 静止

ウ ア 廃止

ウ ア 原因

ウ ア 逆接

解 答 編

小学6年 国語 [基礎]

第一講 きいちゃん（物語文）

解答

一題目
(1)いつもさびしそう
(2)ウ

(3)(例)いつも、きいちゃんのことばかり考えているような人物。

(4)高熱・手や足・訓練

二題目

小6 国語 基礎 テキスト 解答

1 ア (4) ^(確認テストの解答)
2 イ (3)
3 ア (2)
4 エ (1)
5 ウ (2)手足が不自由
(3)きいちゃん・お姉さん・(例)感動
(4)ア

一題目

| | | | | | |
|-----|-----|-----|--------------------------------|------|------|
| (6) | (5) | (4) | (1) | (2) | (3) |
| 工 | ウ | ア | えらそ | えらそ | えらそ |
| イ | | | 父のほこりや、自信や、かがやかしい思い出まで捨ててしまつた。 | 晴れ | 晴れ |
| エ | | | 父のほこりや、自信や、かがやかしい思い出まで捨ててしまつた。 | 大変な罪 | 大変な罪 |
| イ | | | 父のほこりや、自信や、かがやかしい思い出まで捨ててしまつた。 | 晴れ | 晴れ |

（確認テストの解答）

3 ウ
4 ア
5 イ

一題目

(1) 国を治めるため。

経済の繁栄のため。（順不同）

(2) 工

(3) 寺や神社へお参りする旅

(4) 道は、通つ

二題目

(1) あ、人・牛や馬・人力車・大型の馬車

(例) 人と道との結びつきが、少しずつ失われ始めたという問題。

(2) 車社会

(4) 歩く人を主役に考える新しい道造り

〈確認テストの解答〉

1 イ 2 ウ 3 ア 4 イ 5 工

一題目

(1) ウ (2) 自分の頭で考える
(3) 実社会 (4) ④ 上から言われた通りのことをする(人)
(上から指示されたことだけをする)

① 初め……上がる
終わり……です。

二題目

(1) 自分で判断しろ・自分の頭で考える
(2) 工 (3) 自分で判断しろ・訓練・自分の言葉・自分の考え・少しでもちがうこと

〈確認テストの解答〉
1 工 2 ア 3 ウ 4 イ 5 工

一題目

(1)捨てる・なげる

(2)東北の方言

(3)ウ

(4)〔b〕身

(5)ア

(6)工

(7)例)

(例)最初に覚えた言葉は強いから。

(例)生活の拠点を仙台に移すことになつたから。(順不同)

（確認テストの解答）

1 ア 2 イ 3 エ 4 ア 5 ウ

小6 国語 基礎 テキスト 解答

(11) (10) (9) (8) (7) (6) (5) (4) (3) (2) (1) ③ (6) (5) (4) (3) (2) (1) ② (6) (5) (4) (3) (2) (1) ①
イ ア エ エ ア イ エ ウ エ ア イ 得 赛 低 救 画 通 静 自 暗 豊 少 先

1 確認 計(6) 表(5) 梅(4) 食(3) 席(2) 未(1) 6 的(6) 不(5) 化(4) 無(3) 局(2) 深(1) 5 ア(6) オ(5) イ(4) エ(3) ク(2) ウ(1) 4 ヲ(12)

ウ テス

イ 答

3

۲۷

4

工

5

ア

6

小6 国語 基礎 テキスト 解答

| 一題目 | | | 二題目 | | | 三題目 | | |
|-----|-------|----------|------------|-----|----------|------|-----|----------|
| (2) | (1) | イ・エ(順不同) | (2) | (1) | イ・エ(順不同) | (2) | (1) | イ・エ(順不同) |
| ア・エ | (順不同) | | ぬらした | 雨 | 雨 | ぬらした | 雨 | 雨 |
| | | | (2) | ①比ゆ | 比ゆ | | | |
| | | | | | | | | |
| 1 | (3) ウ | (2) イ | (1) 山々の雪・谷 | | | | | |
| 2 | ウ | イ | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

一題目 (1) (例) わらびが芽を出したこと。

二題目 (2) 一目見ん 一目みん

三題目 (3) 銀杏

四題目 (4) ウ

五題目 (5) イ

解答

テキスト (1) ア
(2) 蜜柑の香せり

基礎 (1) ア
(2) たんぽぽの花
(3) a 蝉の声(せみのこゑ)
b 閑ざ(しづ)かさ)

国語 (5) イ

小6 基礎 テキスト 解答

三題目

(1) ウ (順不同)

(2) ア

(3) 小さき歩み
(4) ねこの子・すず・おと

(5) イ

(6) ブール

(7) 季語: ブール

(8) (例) 小さい

(9) ア

(10) 季節: 夏

(11) ウ
すみれ草

四題目

(1) 季語: ブール

(2) (例) 小さい

(3) (例) 小さい

(4) ア

(5) ウ
すみれ草

(6) G
H: イ
… イ

(7) (例) 甲虫が引っぱっているから。
(8) ウ

1 ア 2 ウ 3 イ 4 イ 5 イ
(確認テストの解答)

小6 国語 基礎 テキスト 解答

一題目

(1) お通しえべき応接間もない。
(2) 子どもたちが描いたアリの絵

(3) 感嘆
(4) 思い思に・それぞれに抱いていいるさまざまなアリの姿の思い

二題目

(1) 納得がいった上
(2) イ
(3) ウ

(1) 納得がいった上
(2) イ
(3) ウ
(4) イ
(5) ア

（確認テストの解答）

3
工4
工5
ア

一題目

(1) あおい、お前の所のロシア人が、パンを売りに来たぞ。
 ① ロシア人がうらめしくなつた

(2) あイ
 ① はづかしく・かわいそう

二題目

(1) 時折食べる

(2) (例) ロシアパンを好きになつたから。(ロシアパンを食べたかったから。)

(3) 大人のように子ども

(4) 初め……かれが町
 終わり……気がした

（確認テストの解答）

1 イ 2 ウ 3 エ 4 ア 5 ウ

小6 国語 基礎 テキスト 解答

一題目

(1)あたりまえ
(2)あおどろいたようにして顔を見合わせた
①心からにくらしい(気持ちになつた。)
(3)ア

二題目

(1)(例)心からかわいそうに感じた。
(2)イ
(3)工

(3)(例)ものさびしい気持ち。

1 ア
2 ウ
3 ウ
4 工

5
工

【一題目】

(1) 物が落ちるときの速さについて
 (2) 重い物・軽い物・速く落ちる・アリストテレス
 (3) ア

【二題目】

(1) ふりこを使って人の脈の速さを測る道具
 (2) 実験
 (3) 物理学の神様
 (4) わかりきつたこと

（確認テストの解答）
 1 イ
 2 ア
 3 エ
 4 ア
 5 エ

一題目

(1) ガリレオが今まで思いもしなかった天体の姿があつたから。
(2) 木星の四つの衛星・木星の周りを回つている

(3) ウ
(4) コペルニクス・地動説・賛同

二題目

(1) むすめのマリア・急死

(2) ア

(3) それでも地球は動いている(といふことを証明するため。)
(4) 実験や観測によつて眞実を見いだす(精神。)

（確認テストの解答）

1 イ
2 ウ
3 イ
4 イ
5 イ

(3) (2) (1) [5]
力 工 才(5) (4) (3) (2) (1) [4]
意味 意味 意味 意味 意味… … … … …
才 ウ ア エ イ

ことわざ ことわざ ことわざ ことわざ ことわざ

… … … … …
キ ケ カ ク コ(3) (2) (1) [3]
イ ウ ア(4) (3) (2) (1) [2]
アイ ウ 工(3) (2) (1) [1]
アイ ウ

1、ことわざ

(3) (2) (1) [5]
手 足 口(3) (2) (1) [4]
ア ウ イ(4) (3) (2) (1) [3]
イ カ ウ ア(3) (2) (1) [2]
歯 鼻 手(5) (4) (3) (2) (1) [1]
顔 耳 手 口 目

2、慣用句

1 ウ
2 ア
3 イ
4 イ
5 エ

〈確認テストの解答〉

小6 国語 基礎 テキスト 解答

(4) (3) (2) (1) ① 工 工 ウ イ 3、修飾語

(3) (2) (1) ④ ウ ア イ

(3) (2) (1) ③ ア ウ イ

(3) (2) (1) ② ウ ウ イ

1、主語と述語

2、主語と述語の関係

① (1) 主語…母が
主語…冬は
主語…ポスターが
述語…買った
述語…寒い
述語…ある

② (1) 主語…祖父は
主語…友人こそ
述語…作家だった
述語…ふさわしい
述語…あつた

③ (1) 働いている
持ち主は
かばんが
④ (1) あちらの・大きな・白い
たくさん
試合で・ひざを・ひどく
ビルで・大量に

(1) 難しい
(2) とても
(3) 弟たちと・試合を
(4) 昨日・アメリカから

(3) (4) は順不同

① (1) イ
(2) ア
(3) エ
(4) ウ
(5) ウ

② (1) ウ
(2) ア
(3) イ
(4) ウ
(5) エ

③ (1) ウ
(2) エ
(3) イ
(4) ウ
(5) ウ

④ (1) ウ
(2) エ
(3) イ
(4) ウ
(5) ウ

①

ア・イ・エ・オ・カ・ケ・コ・サ・シ
(順不同)

②

(1) 起きる・みがく
(2) 信じる・見る
(3) 行く・乗る

(それぞれ順不同)

小6 国語 基礎 テキスト 解答

(3) ② ① ③ ② ③ ① ② ① ② ① ① ④
イ ウ ア ウ ア ア イ イ イ ウ ア(3) (2) (1) ③
ア オ ク イ ウ キ
ア・エ・カ

(それぞれ順不同)

1 ③ ② ① ア ③ ② イ ② ① ウ ② ① ア
ウ イ ウ ウ ウ ウ2 イ
工

3

イ

4

ア

5

ウ

<確認テストの解答>

一題目

(2) (1) ア
④(例) もし失敗しても、初めから謝つてしまえば許される、という甘え(があるから)。

①たとえ失敗をしても、その全責任を自分が背おつて、他人には絶対に泣き言などいわない(という考え方。)

⑤(例)日本人よりずっと自分自身に厳しい(と思つた。)

〈確認テストの解答〉

1 イ 2 ア 3 ウ 4 イ 5 エ

一題目

(1) aちがう

bならない

c感情的

d反発

(3) (2) 独りぼっちは自由のようだが、ほんとうは不自由なのだ。
7

（確認テストの解答）

1 工 2 工 3 工 4 ア 5 工

〔確認テストの解答〕

一題目

(1) 定年制

(2) (例)日本の労働力が相対的に安かつたから。

(例)日本の製造業のもつ技術力が高かつたから。

(3) 欧米のモノづくりを忠実にまねること

(順不同)

(5) (4) 労働力

1 ウ 2 ア 3 エ 4 ウ 5 エ
（確認テストの解答）

一題目

(1) 春…夜明け

夏…夜

秋…夕暮れ

冬…早朝

(2) ゆるんで・白い灰ばかり・みつともない

二題目

(1) 数人・一人

(2) (例) 蛇には足がないのに、足を書いてしまったから。

(3) ア

(確認テストの解答)

1 エ
2 イ
3 ウ
4 ア
5 イ

小6 国語 基礎 テキスト 解答

一題目

(1) いつ……一九一〇年

どこで……現在のマケドニアの首都であるスコピエという町

(2) ②あフランシスコ

①わたしも、

(3) 女学校の校長

二題目

(1) あ(例)すぐいたい

①スラムの子どもたちのための学校や、孤児の家を作り始めた

(2) 一九五二年の真夏の暑い日

(3) 工

（確認テストの解答）

1 イ 2 ア 3 イ 4 ウ 5 エ

一題目

(1) ア (2) 休けいの家
(3) イ (4) 病気・さびしい思いに追いやられる

二題目

(1) 死んでいく最後の最後まで、手を差しのべること

(2) 正式な名前……清い心の家

呼び名……死を待つ人の家

(3) 初めて人間としてあつかわれた・せいいっぱいの喜び

1 ア 2 イ 3 ウ 4 イ 5 ウ
(確認テストの解答)

一題目

(1) 電池

(2) アミノ酸・タンパク質

(3) ア・イ（順不同）

(4) 生き物

二題目

(1) 脳がダメージを受けるため

(2) 脳に疲労をためた状態

(3) 言葉

(4) イ

（確認テストの解答）

1 イ

2 ウ

3 ア

4 エ

5 イ